Canon

EOS-1D Mark II DIGITAL

使用説明書

Canon EOS-1D Mark II 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS-1D Mark II は、有効画素約820万・高精細大型CMOSセンサーを搭載した高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、高精度エリアAF機能搭載、全EF レンズ群対応（EF-Sレンズ除く）、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、簡単な自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により撮影画像の記録やパソコンへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- SDロゴは商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用し合うことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

同梱品の確認

初めてご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。
同梱されているアクセサリーは、システムマップ（168）でも確認できます。

□ **EOS-1D Mark II**／カメラ本体（アイカップ、ボディキャップ、バッテリー室キャップ付き。日付／時計機能用リチウム電池内蔵）
□ **ニッケル水素パック NP-E3**（保護カバー、使用説明書付き）
□ **ニッケル水素チャージャー NC-E2**（使用説明書付き）
□ **DCカプラーキット DCK-E1**（使用説明書付き）
□ **ワイドストラップ L5**
□ **インターフェースケーブル IFC-200D4**
□ **インターフェースケーブル IFC-400PCU**
□ **ビデオケーブル VC-100**

デジタル ソリューション ディスク
□ **EOS DIGITAL Solution Disk**
デジタル フォト プロフェッショナル ディスク
□ **Digital Photo Professional Disk**

□ **ポケットガイド**
すぐに撮影したいかたは、このポケットガイドをご覧ください。
□ **EOS-1D Mark II 使用説明書**（本書）
□ **EOS-1D Mark II ソフトウェア使用説明書**
撮影した画像のパソコンへの取り込み、RAW 画像の現像処理・画像処理の方法について説明しています。

□ **お客様ご相談窓口**
□ **保証書**

※ 同梱品は、なくさないようご注意ください。
※ メモリーカードは、キヤノン製のご使用をおすすめします。

目　次

はじめに

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、バッテリーを取り外して早めに最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、メモリーカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り外し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのお客様相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

メモリーカードについて

- メモリーカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。メモリーカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。メモリーカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。メモリーカードが変形して使用できなくなります。
- メモリーカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、メモリーカードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- キヤノン製以外のメモリーカードを使用すると、画像の記録・再生ができないものがあります。このような場合は、キヤノン製メモリーカードのご使用をおすすめします。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えないでください。
- 温度の高い所、ホコリや湿気の多い所に保管しないでください。

レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

〈⊜〉スイッチを〈ON〉にしたまま長時間使用すると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温火傷の原因となることがありますので、ご注意ください。

各部の名称

（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

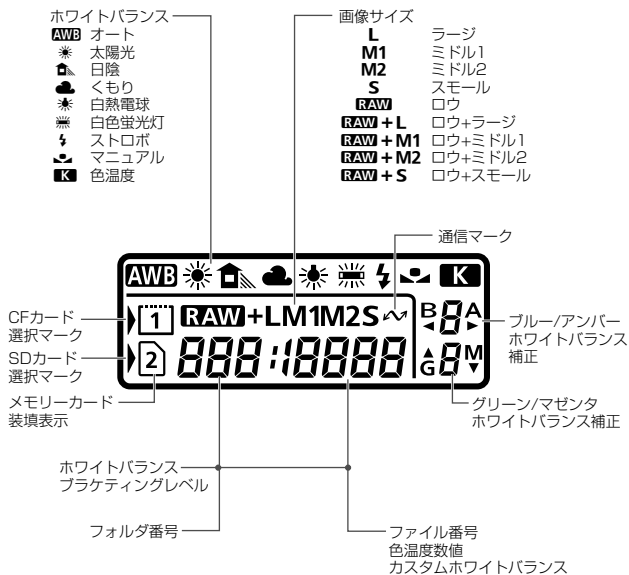
ボディキャップ(21)

シンクロ接点
アクセサリーシュー
撮像面マーク
〈 〉表示パネル照明ボタン（94）
〈 〉測光モード選択／ストロボ調光補正ボタン（78／79）
〈FEL〉FEロック／マルチスポット測光ボタン（149／80）
〈MODE〉撮影モード選択ボタン（82）
〈 〉露出補正／手動絞り数値設定ボタン（90／88）
〈AF〉AFモード選択ボタン（64）
〈 〉メイン電子ダイヤル（27）
〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン（75）
上面表示パネル（11）
〈ISO〉ISO感度設定ボタン（45）
〈 ／WB +/-〉アシスト／ホワイトバランス補正ボタン（68／50）
〈 〉AEB設定ボタン（91）
〈＊／ 〉AEロック／縮小ボタン（93／107）
ストラップ取り付け部（40）
〈 ／ 〉AFフレーム選択／拡大ボタン（66／107）
アイピースシャッターレバー（95）
〈 〉シンクロ端子（98）
〈 〉サブ電子ダイヤルスイッチ（14）
〈 〉リモコン端子（N3タイプ）
〈 〉サブ電子ダイヤル（28）
〈＊／ 〉縦位置AEロック／縮小ボタン（29, 93／107）
バッテリー取り外しボタン（19）
〈 ／ 〉縦位置AFフレーム選択／拡大ボタン（29, 66／107）
バッテリー着脱つまみ（19）
バッテリー（16）
〈 ／WB +/-〉縦位置アシスト／ホワイトバランス補正ボタン（29, 68／50）
視度調整つまみ（35）
ファインダー接眼部
〈 〉電源スイッチ（25）
MODE
AF
ISO
DRIVE
MENU
SELECT
DISPLAY
Canon
FOLDER
FILE
CLEAR
WB

*本書では、SDメモリーカードをSDカードと表記しています。

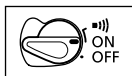
上面表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

背面表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

中央部スポット測光範囲
エリアAFフレーム
レーザーマットスクリーン
AFフレーム
露出レベル表示
連続撮影時の最大撮影可能枚数
JPEGマーク
●合焦マーク
撮影可能枚数
ISO感度
セルフタイマー作動時間
M マニュアル露出
AEロック
AEB撮影中
マルチスポット測光
ストロボ充電完了
FEロック連動範囲外警告
ハイスピードシンクロ（FP発光）
シャッター速度
バルブ
AFフレーム選択モード（[ ], SEL）
FEロック
データ処理中（buSY）
絞り数値
AFフレーム選択モード（AF, [ ], HP）
メモリーカード番号 (1, 2)
露出補正
ストロボ調光補正
ホワイトバランス補正
ISO表示
標準露出指標
露出段数目盛
：1段
：1／3段
露出オーバー
調光オーバー
露出レベル
調光レベル
調光アンダー
露出アンダー

本使用説明書上のおことわり

- 本文中の〈 〉は電源スイッチを示しています。
〈 〉スイッチが〈ON〉か〈 〉になっていることを前提に、それぞれの操作方法を説明しています。

- 本文中の〈 〉はメイン電子ダイヤルを示しています。

- 本文中の〈 〉はサブ電子ダイヤルを示しています。

- 本文中の〈 〉はサブ電子ダイヤルスイッチを示しています。
〈 〉操作は、〈 〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈ON〉になっていることを確認してください。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
- （＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
- 本書では、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- MENUは、メニュー機能で設定変更できることを示しています。
- （6）／（16）はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

  ：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

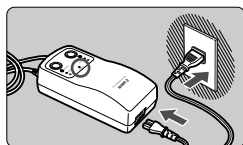
  ：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

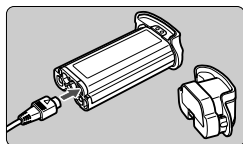
1

使用前の準備と基本操作

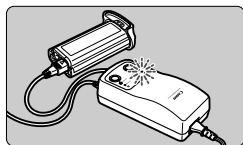
この章では、撮影に入る 前にあらかじめ準 備しておくことと、EOS-1D Mark IIの操作の基本について説明しています。

バッテリーを充電する

バッテリーの詳しい取り扱い操作については、ニッケル水素パックNP-E3または、ニッケル水素チャージャー NC-E2の使用説明書を参照してください。

1 電源コードを接続する

➡ 〈**POWER**〉ランプが点灯します。

2 保護カバーを外して、バッテリーを接続する

● 外したカバーはバッテリー室キャップに取り付けて保管してください。

● バッテリーをカメラから取り外したときは、ショート防止のため必ず保護カバーを取り付けてください。

3 充電する

➡ バッテリーを接続すると自動的に充電が始まり、〈**CHARGE**〉ランプが点灯します。

➡ 充電が完了すると速い点滅(1秒に2回)に変わります。

➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、バッテリー1本あたり約120分です。**

● 充電が終わったら、バッテリーを外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

Ni-MH

- この製品には、ニッケル水素電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページで確認できます。

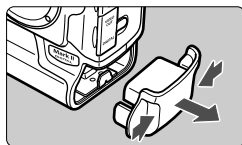
キヤノンサポートページ： canon.jp/support

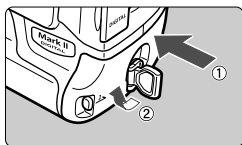
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ・製品、ニッケル水素電池をご購入いただいた販売店
  - ・（社）電池工業会小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

  *（社）電池工業会 電話番号 03-3434-0261

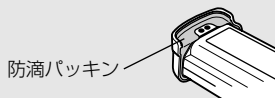
リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

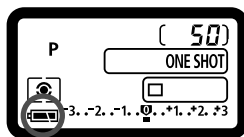
バッテリーを入れる／取り出す

入れ方

1 **バッテリー室キャップを取り外す**

- キャップの両脇をつまんで引き出します。

2 **バッテリーを入れる**

- バッテリーを押しながら、着脱つまみを矢印方向に回して入れます。

バッテリーの防滴パッキンにゴミなどが付着している場合は、湿らせた綿棒などで取り除いてください。

バッテリーチェックについて

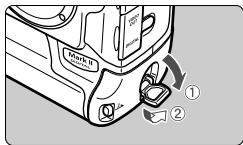
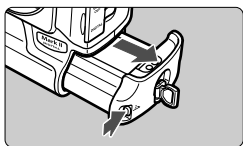
バッテリーの残量は、〈⊜〉スイッチを〈ON〉にしたとき（25）3段階で表示されます。

：バッテリーの容量は十分です。
：残量が少なくなっています。
：もうすぐバッテリー切れになります。
：バッテリーを充電してください。

撮影可能枚数の目安

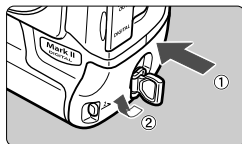
温　度	撮影可能枚数
常　温（+20℃）	約1200
低　温（0℃）	約800

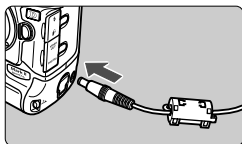
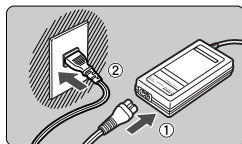
撮影可能枚数は、当社試験基準によります。

- 実際の撮影条件との違いにより、撮影枚数は表記数値よりも少なくなる場合があります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影枚数は少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行なうと、撮影枚数が少なくなります。
- ニッケル水素電池はその特性上、完全に放電されない状態で充電を繰り返すと、メモリー効果という現象で電池容量が低下します。メモリー効果を解消する方法につきましては、ニッケル水素チャージャーNC-E2の使用説明書を参照してください。

取り出し方

1 着脱つまみをおこし、矢印方向に回す

2 取り外しボタンを押し、バッテリーを引き出す

家庭用電源を使用する

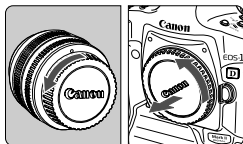
DCカプラーキットDCK-E1を使うと、家庭用電源を使用してバッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーを入れる

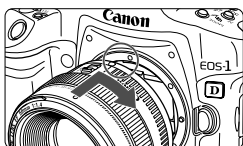
- カプラーを押しながら、着脱つまみを矢印の方向に回して入れます。

2 DCプラグを接続する

3 電源コードを接続する

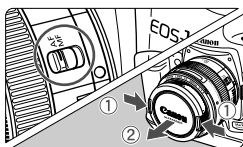
- 使い終わったら、カメラの〈⏻〉スイッチを〈OFF〉にしてからDCプラグを抜いてください。

- DCカプラーは防滴構造になっていませんので、屋外で使用するときは、濡らさないよう注意してください。
- カメラの〈⏻〉スイッチが〈ON〉の状態でDCプラグ、またはACアダプターの電源コードを抜かないでください。カメラが作動しなくなることがあります。作動しなくなった場合、カメラからDCカプラーを取り出して、再度入れ直すと正常な状態に戻ります。

レンズを取り付ける／取り外す

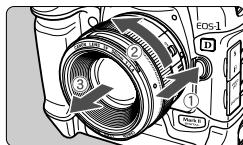
取り付け方

1 **キャップを外す**

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 **レンズを取り付ける**

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 **レンズの フォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**

- 〈**MF**〉になっているとオートフォーカスできません。

4 **レンズキャップを外す**

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回す

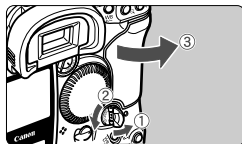
- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、外してください。

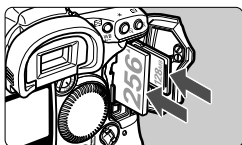
 レンズを取り付け／取り外しする際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分注意してください。

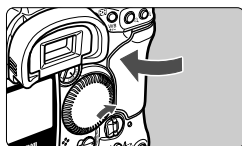
メモリーカードを入れる／取り出す

このカメラは、CFカードとSDカードの2種類が使用できます。撮影は、どちらかひとつのメモリーカードが入っていれば可能です。
両方のメモリーカードを入れたときは、どちらのメモリーカードを使用するか選択することができます（59）。

SDカード使用時は、ライトプロテクトスイッチが上側(書き込み／消去可能位置)にセットされていることを確認してください。

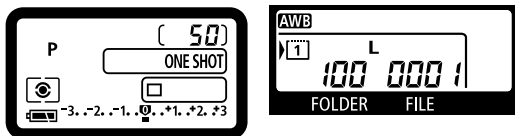
入れ方

1 カバーを開く

- 開放つまみを起こし、矢印方向に回して開きます。

2 メモリーカードを入れる

- CF カードは左側、SD カードは右側のスロットに入れます。
- メモリーカードの製品ラベル面を左側にして、〈▲〉マークの向きにしっかり奥まで差し込みます。

3 カバーを閉じる

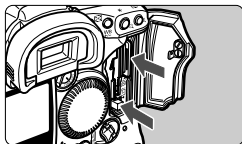
- 開放つまみが元の位置に戻るまでカバーを押します。

4 〈⏻〉スイッチを〈ON〉にする

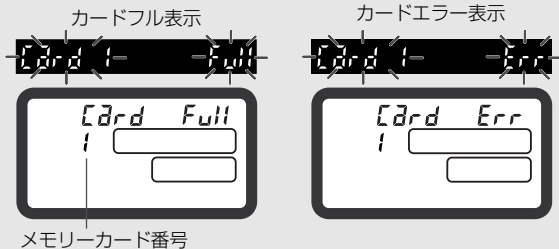
➡ 上面表示パネルとファインダー内に撮影可能枚数が表示されます。
➡ 背面表示パネルには、フォルダ番号とファイル番号が表示されます。また、記録するメモリーカードのマークが表示されます。

CF カードには、厚さの異なるタイプ I 、タイプ II がありますが、このカメラでは、どちらのタイプでも使用できます。

取り出し方

1 カバーを開く

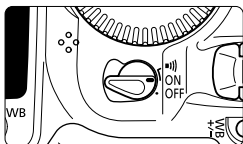
● 〈⏻〉スイッチを〈OFF〉にします。
● アクセスランプが消えていることと、上面表示パネルに「**buSY**」が表示されていないことを確認して、カバーを開きます。

2 メモリーカードを取り出す

● CF カードは、取り出しボタンを押し込むと出てきます。
● SD カードは、カードを奥に押し込んで離すと出てきます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、メモリーカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中、露光中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。**
  また場合によってはメモリーカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
  ・メモリーカードスロットカバーを開く
  ・バッテリーを取り出す
- 撮影後の現像処理中と、メモリーカードへの画像記録中（アクセスランプ点灯／点滅中）は、メニュー機能の操作はできません。
- メモリーカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内にカードフル警告「**Card Full**」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるメモリーカードに入れ換えてください。
- 表示パネルに「**Card Err**（カードエラー）」が表示された場合は、117 ページを参照してください。

- 低容量のメモリーカードでは、画像サイズが大きくなると、メモリーカードに記録できないことがあります。
- マイクロドライブは、メモリーカードに比べると振動や衝撃に弱いため、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分にご注意ください。
- SDカードの接点は、指や金属で触らないでください。

操作の基本

電源スイッチ

このカメラは〈 〉スイッチを入れて初めて作動します。

〈OFF〉: カメラは作動しません。

〈ON〉: カメラを作動させるときはこの位置にします。

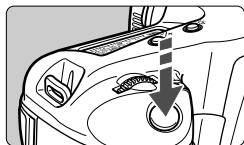
〈 〉: 〈ON〉と同じですが、ワンショット AF と手動ピント合わせでピントが合ったときに電子音が鳴ります。

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間、何も操作しないと自動的に電源が切れます。(33) 再度、カメラを使用するには、シャッターボタンを半押ししてください。
- メモリーカードへの画像記録中に〈 〉スイッチを〈OFF〉にすると、あと何枚で画像記録が終るかが上面表示パネルに表示されます(画像記録中の残り枚数)。画像記録が終了すると、表示が消えて電源が切れます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

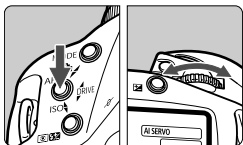
半押し（⏱6）

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）は、表示パネルとファインダー内に表示されます。

全押し

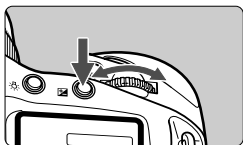
シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱6）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリント出力中を除く）。

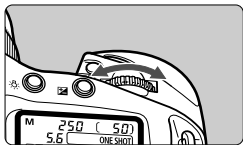
〈 〉による機能の選択と設定

〈 〉は主に撮影に関する設定に使用します。基本操作には、次の3とおりがあります。

(1) ボタンを押したまま、表示パネルを見ながら〈 〉を回す

ボタンから指を離すと選択した内容が設定され、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、AF モード、測光モード、ドライブモードなどの設定に使用します。

(2) ボタンを押した後、〈 〉を回す

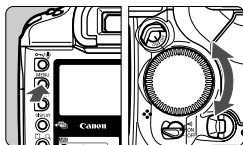
ボタンを押すとその機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。

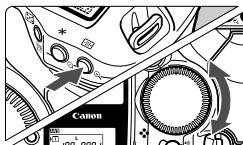
- AF フレームの選択と〈 〉ボタンを使用した露出補正の設定に使用します。

(3) 〈 〉のみを回す

表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

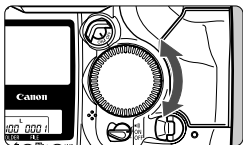
- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

〈◎〉による機能の選択と設定

AFフレーム選択などの撮影準備操作と液晶モニター内容の選択・設定に使用します。撮影準備操作での〈◎〉は、〈◎〉スイッチが〈ON〉になっているときのみ働きます。
〈◎〉による基本操作には、次の3とおりがあります。

(1) ボタンを押したまま、〈◎〉を回す

- メニュー機能の選択・設定やストロボ調光補正などに使用します。ボタンから指を離すと選択した内容が設定されます。
- 液晶モニター使用時は、記録画像の確認や選択などに使用します。

(2) ボタンを押した後、〈◎〉を回す

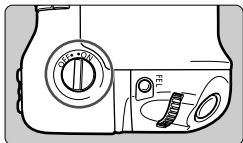
ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。
タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。

- AF フレームの選択や露出補正などに使用します。

(3) 〈◎〉のみを回す

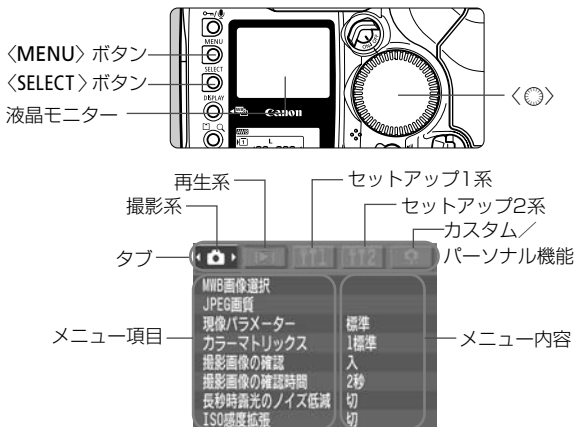
撮影時は、ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

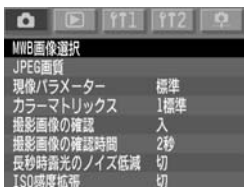
- 撮影時は、マニュアル絞り数値の設定に使用します。

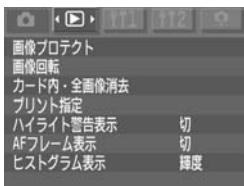
縦位置撮影時の操作

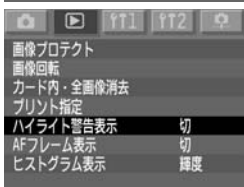
ボディ下部には、縦位置撮影用のシャッターボタン、メイン電子ダイヤル、AFフレーム選択ボタン、AEロックボタン、アシストボタン、FEロック／マルチスポット測光ボタンが配置されています。

- 縦位置撮影用・操作部材を使用するときは、縦位置操作ON／OFFスイッチを〈**ON**〉にします。
- 使用しないときには、操作部材が誤って作動しないよう、縦位置操作ON／OFFスイッチを〈**OFF**〉にします。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、現像パラメーターや、日付時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈SELECT〉ボタン、〈◎〉を使って、次の手順で行います。

- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。
- この項以降のメニュー機能の説明は、メニュー項目、またはメニュー内容が表示されていることを前提に説明しています。

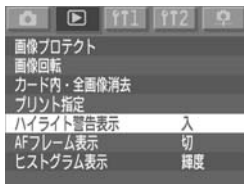
メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。
- メニューが表示された状態で次の手順に進んでください。

2 タブ（ 1 2 ）を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してタブを選び、〈MENU〉ボタンから指を離します。

3 メニュー項目を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してメニュー項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。

4 メニュー内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してメニュー内容を選び、**〈SELECT〉ボタンから指を離すと選んだ内容が即、設定されます。**

5 終了する

● 〈MENU〉ボタンを押して終了します。

メニュー機能一覧

〈📷〉撮影系

MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定
JPEG画質	**L**、**M1**、**M2**、**S**の画質（圧縮率）を設定
現像パラメーター	標準 セット1 セット2 セット3 設定
カラーマトリックス	1 標準 2 ポートレート 3 高彩度 4 Adobe RGB 5 低彩度 6 CMセット1 7 CMセット2 設定
撮影画像の確認	切 入 入(INFO.)
撮影画像の確認時間	2秒 4秒 8秒 ホールド
長秒時露光のノイズ低減	切 入
ISO感度拡張	切 入

〈▶〉再生系

画像プロテクト	画像の保護
画像回転	画像を縦横回転
カード内·全画像消去	記録内容を全て消去
プリント指定	プリントする画像を指定
ハイライト警告表示	切 入
AFフレーム表示	切 入
ヒストグラム表示	輝度 RGB

〈🔧1〉セットアップ系1

オートパワーオフ	1分 2分 4分 8分 15分 30分 切
ファイル番号	オートリセット 通し番号 強制リセット
バックアップモード	切 CFカードメイン SDカードメイン
縦横自動回転表示	入 切
カメラ設定の保存	メモリーカードに設定を保存する
カメラ設定の読み込み	メモリーカードに保存された設定を読み込む
カード初期化	記録内容を初期化して消去

〈🔧2〉セットアップ系2

液晶モニターの明るさ	5段階
日付／時刻	日付／時刻の設定
言語	12言語
ビデオ出力方式	NTSC PAL
ファームウェア	アップデート時に選択
センサークリーニング	センサークリーニング時に選択

〈📷〉カスタム／パーソナル機能

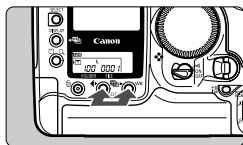
カスタム機能(C.Fn)設定	カメラの機能を細かく設定する
パーソナル機能(P.Fn)設定	カスタム機能をグループ登録する
カスタム機能一括解除	使用中のカスタム機能を一括解除する
パーソナル機能一括解除	パーソナル機能を一括解除する

選択できる言語

英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語、デンマーク語、フィンランド語、イタリア語、ノルウェー語、スウェーデン語、スペイン語、簡体中国語、日本語

液晶モニターについて

- 液晶モニター使用時は、〈◎〉スイッチが〈OFF〉でも〈◎〉を使用することができます。
- 液晶モニターをファインダーとして見ながら撮影することはできません。
- 液晶モニターの明るさを、メニュー機能〈ƳƮ2〉タブの〔**液晶モニターの明るさ**〕で調整することができます。

カメラの各機能設定を初期状態にするには

〈⁜〉ボタンと〈WB〉ボタンを2秒間、同時に押す

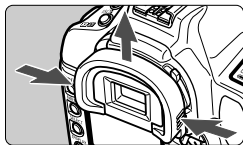
➡ カメラの状態は次の表のようになります。

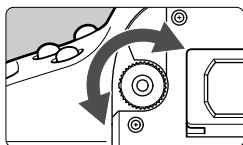
撮影機能関係

撮影モード	〈**P**〉プログラムAE
AFモード	ワンショットAF
測光方式	評価測光
ドライブモード	1枚撮影
AFフレームの選択	自動選択
露出補正	0（ゼロ）
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
AEロック	解除
FEロック	解除
AEB撮影	解除
カスタム機能	設定状態のまま
AFフレームの登録	中央AFフレーム

記録画像関係

画像サイズ	**L**（ラージ）
ホワイトバランス	AWB
ホワイトバランスブラケティング撮影	解除
ホワイトバランス補正	0（ゼロ）
現像パラメーター	標準
カラーマトリックス	1 標準

鮮明なファインダーに調整する

1 アイカップを外す

● アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2 視度調整つまみを回す

● ファインダー内のAF フレームまたは中央部スポット測光範囲マークが最も鮮明に見えるようにつまみを右または左に回します。

3 アイカップを接眼部に取り付ける

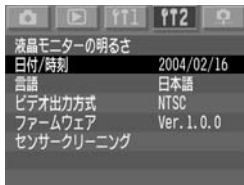
視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズ E（10 種）のご利用をおすすめします。（167）

カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

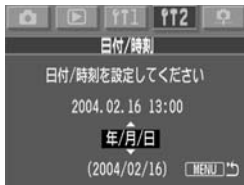
横位置　　縦位置

● カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
● 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
● カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
● 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

MENU 日付／時刻を設定する

1 ［日付／時刻］を選ぶ

- 〈ʏ2〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**日付／時刻**］を選び、ボタンから指を離します。

2 日付と時刻を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押すたびに、設定位置が変わります。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する数字を選び、ボタンから指を離します。

3 日付の表示順序を選ぶ

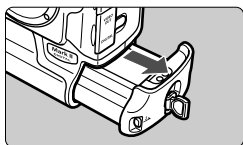
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**年／月／日**］、［**月／日／年**］、［**日／月／年**］の中から希望する順序を選び、ボタンから指を離します。

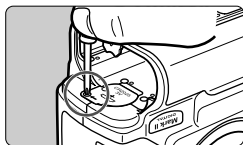
4 〈MENU〉ボタンを押す

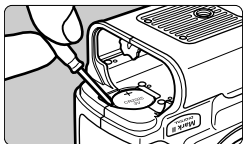
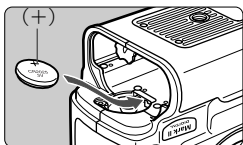
➡ 日付、時刻が設定され、メニューに戻ります。

撮影した画像には撮影した日付／時刻が一緒に記録されます。日付／時刻が設定されていないと、撮影した日付／時刻が正しく記録されませんので、必ず正しく設定してください。

日付／時計機能用電池を交換する

日付／時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約10年です。バッテリー交換で日付／時刻がリセットされるようになったら、新しいCR2025リチウム電池を次の手順で交換してください。

1 〈〉スイッチを〈OFF〉にして、バッテリーを取り出す

- 電池はバッテリー室の上部に収納されています。

2 ふたを取り外す

- 図に示すねじをゆるめ、ふたを外します。

3 電池を取り出す

4 新しい電池を入れる

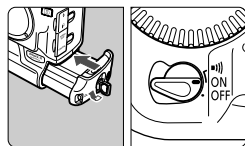
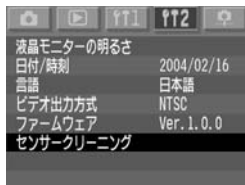
- （＋）側を上にして入れます。

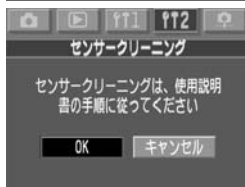
5 ふたを取り付ける

- バッテリーを入れて〈〉スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに「日付／時刻」の設定画面が表示されますので、日付／時刻を設定します。

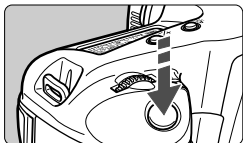
MENU 撮像素子をクリーニングする

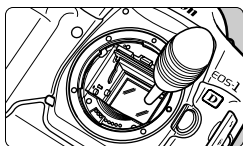
撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分で、この撮像素子の表面にゴミやホコリなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このような場合は、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどをクリーニングしてください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、クリーニングが必要なときは、できるだけキヤノンサービスセンターにお申し付けください。
クリーニングを行う場合は、DCカプラーキットによる家庭用電源を使用してください。バッテリーを使用する場合は、必ず残量の十分にあるバッテリーを使用してください。
また、クリーニングを始める前に、レンズを取り外してください。

---

1 DCカプラーかバッテリーを入れて、〈 〉スイッチを〈ON〉にする

2 [センサークリーニング] を選ぶ

- 〈YY2〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**センサークリーニング**］を選び、ボタンから指を離します。

3 [OK] を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。

➡ 液晶モニターが消えます。

4 シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。

5 撮像素子をクリーニングする

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のホコリを吹き飛ばします。

6 クリーニングを終了する

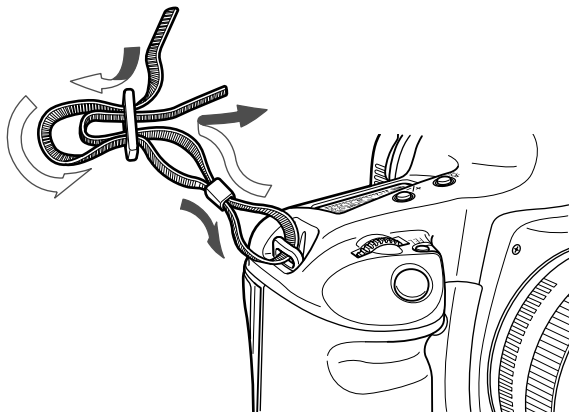
- 〈⊜〉スイッチを〈OFF〉にします。

➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じ、ミラーが下がります。

- 〈⊜〉スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- クリーニング中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により、撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。

ストラップの付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。

 取り付け終わりましたら、ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

2

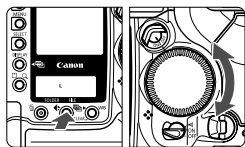
画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ホワイトバランス、カラーマトリックス、現像パラメーターといった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

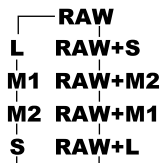
MENU 記録画質を設定する

画像サイズ（記録画素数）の選択とJPEG画質（圧縮率）の設定を行います。RAW形式とJPEG形式の同時記録は、画像サイズの選択肢の中にあります。

画像サイズの選択

〈RAW〉以外は、汎用性の高いJPEG形式で記録されます。〈RAW〉は撮影後、付属ソフトウェアで現像処理を行う必要があります。RAW＋**S**/**M2**/**M1**/**L**は、RAW形式とJPEG形式を同時記録します。

画像サイズを選ぶ

● 〈⬥〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、希望する画像サイズを選択してボタンから指を離します。

RAW
L　RAW+S
M1　RAW+M2
M2　RAW+M1
S　RAW+L

画像サイズを選ぶときの目安

画像サイズ（記録画素数・約 万）		プリントサイズ
L（ラージ）	3504×2336（820）	A3以上
M1（ミドル1）	3104×2072（640）	A4以上
M2（ミドル2）	2544×1696（430）	A5～A4
S（スモール）	1728×1152（200）	A5以下
RAW（ロウ）	3504×2336（820）	A3以上

- JPEG形式の画像は「jpg」、RAW形式の画像は「cr2」の拡張子が付きます。
- RAW形式とJPEG形式の同時記録では、RAW(cr2)、JPEG(jpg)形式に分けた2種類のデータを、同じフォルダに同じファイル番号で保存します。JPEG形式の画像は、ダイレクトプリントやプリント指定を行うことができます。
- **L**／**M1**／**M2**／**S**を選択すると、ファインダー内右に〈JPEG〉が表示されます。（RAW形式とJPEG形式の同時記録時は除く）

RAWについて

RAWはパソコンでの現像処理を前提としているため、専門的な知識が必要ですが、付属ソフトウェアの現像機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。

〈RAW〉画像の現像処理は、撮影時に設定されていたカラーマトリックス、ホワイトバランス、現像パラメーターの内容で行われます。

現像処理とは、RAWデータに対して、ホワイトバランスやコントラストなどの画像調整を行って、画像を創り出すことをいいます。

なお、RAW形式のデータは、ダイレクトプリントやプリント指定ができません。

画像サイズに対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

画像サイズ	1枚のサイズ（約MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
L	2.8	79	40
M1	2.2	84	50
M2	1.7	112	53
S	1.0	195	53
RAW	8.3	21	20
RAW＋L	—	16	18
RAW＋M1	—	16	18
RAW＋M2	—	17	18
RAW＋S	—	19	18

- 撮影可能枚数は、256MBのメモリーカード使用時の枚数です。
- 1枚のサイズ、撮影可能枚数は当社試験基準（JPEG 画質：8、現像パラメーター：標準、ISO100など）によります。被写体、JPEG画質、撮影モード、ISO感度、現像パラメーターなどにより変化します。
- ご使用になるメモリーカードの撮影可能枚数は、上面表示パネルで確認することができます。

JPEG 記録画質（圧縮率）の設定

L/**M1**/**M2**/**S**それぞれの記録画質（圧縮率）を設定することができます。

1 [JPEG画質] を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、[JPEG 画質] を選択して、ボタンから指を離します。

2 画像サイズを選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、画像サイズ（**L**/**M1**/**M2**/**S**）を選択して、ボタンから指を離します。

3 記録画質を設定する

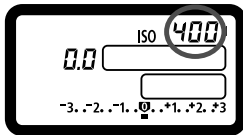
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、記録画質を設定して、ボタンから指を離します。
- 大きな数字に設定するほど高画質（低圧縮）で記録されます。

- 記録画質は、大きな数値に設定するほど高画質になりますが、撮影可能枚数は少なくなります。逆に小さな数値にするほど画質は低下しますが、撮影可能枚数は多くなります。
- JPEG画質の1～5は〈◢〉、6～10は〈◢〉で表示されます。

ISO 感度を設定する

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなる場合があります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を100〜1600まで、1／3段ステップで設定することができます。

1 **〈AF〉ボタンと〈◉⚡〉ボタンを同時に押す**

➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。

2 **そのまま〈⚙〉を回す**

● 表示パネルに希望する ISO 感度が表示されるまで〈⚙〉を回しボタンから指を離します。

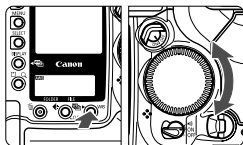
➡ ISO 感度が設定されます。

● ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。
● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

ISO 感度拡張

メニュー機能〈📷〉タブの［**ISO 感度拡張**］を［**入**］にすると、上記の ISO 感度の設定で、ISO50 ／3200 相当の設定ができるようになります。ISO50 は「**L**」、ISO3200 は「**H**」で表示されます。

MENU ホワイトバランスの選択

通常は、〈AWB〉で最適なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。

ホワイトバランスを選ぶ

- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望するホワイトバランスを選び、ボタンから指を離します。

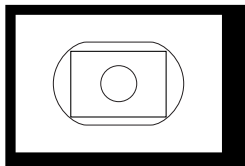
AWB

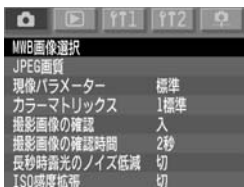
AWB：オート（約 3000 ～ 7000K）
☀：太陽光（約 5200K）
日陰アイコン：日　陰（約 7000K）
くもりアイコン：くもり、薄暮、夕やけ空（約 6000K）
白熱電球アイコン：白熱電球（約 3200K）
蛍光灯アイコン：白色蛍光灯（約 4000K）
ストロボアイコン：ストロボ使用（約 6000K）
マニュアルアイコン：マニュアル（約 2000 ～ 10000K）
手動で撮影環境に最適な設定をするとき（47）
K：色温度（約 2800 ～ 10000K）
PC-1、**PC-2**、**PC-3**：カスタムホワイトバランス
付属のソフトウェアで登録します。
カメラに登録されていないときは表示されません。

ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなります。
人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色あいで撮影できます。このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

MENU マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランスは、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、この画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。

1 白い被写体を撮影する

- 中央部スポット測光の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、手動でピントを合わせます（74）。
- どのホワイトバランス（46）設定でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるよう撮影します。露出がアンダー、またはオーバーになると正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

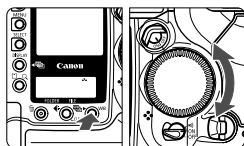
- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［MWB 画像選択］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ 9枚インデックス表示になります。

3 画像を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、手順1で撮影した画像を選び、ボタンから指を離します。

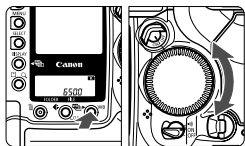
4 設定する

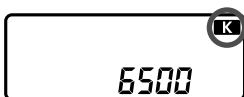
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ ホワイトバランスデータが取り込まれます。

5 〈 〉を選ぶ

- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈 〉を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ マニュアルホワイトバランスが設定されます。

白い被写体の代わりに 18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

色温度を直接設定する

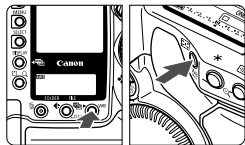
ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1 ホワイトバランスの〈K〉を選ぶ

- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈K〉を選びます。

2 色温度を設定する

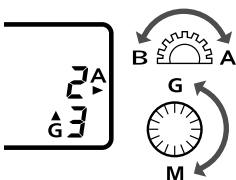
- 〈WB〉ボタンを押しながら〈☼〉を回して、希望する色温度を設定し、ボタンから指を離します。
- 設定できる色温度範囲は、2800 ～ 10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン）を行ってください。
- カラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

ホワイトバランスを補正する

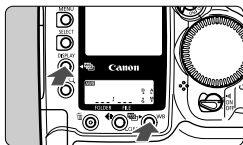
設定しているホワイトバランスモードの標準色温度を補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換用フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。
特に色温度変換フィルターや､色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

1 **〈WB〉ボタンを押しながら〈WB±〉ボタンを押す**

- **〈WB〉ボタンは押したままにしておきます。**〈WB±〉ボタンは離してもかまいません。

2 **〈WB〉ボタンを押したまま〈 〉、または〈 〉を回す**

- 〈 〉でブルー(B)／アンバー(A)寄り、〈 〉でマゼンタ(M)／グリーン(G)寄りの色に補正されます。
- ブルー(B)／アンバー(A)寄り、マゼンタ(M)／グリーン(G)寄り両方の組み合わせで補正できます。
- ホワイトバランス補正を解除するときは、設定を「**0**」に戻します。

- 補正中は、ファインダー内に〈WB±〉が表示されます。
- ブルー／アンバーの1段は、色温度変換フィルターの5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わす単位）。
- ホワイトバランスブラケティングや AEB 撮影と組み合わせることができます。

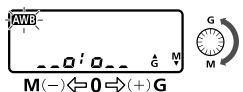
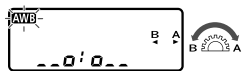
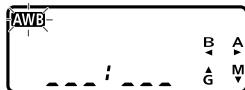
ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの標準色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像を記録します。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。補正幅は1段ステップ±3段です。

1 〈WB〉ボタンを押しながら〈DISPLAY〉ボタンを押す

➡ 背面表示パネルが、以下の表示になります。

● **〈DISPLAY〉ボタンは押したままにしておきます。**〈WB〉ボタンは離してもかまいません。

B(−)⇦0⇨(+)A

M(−)⇦0⇨(+)G

2 〈DISPLAY〉ボタンを押したまま〈 〉、または〈 〉を回す

● 〈 〉でブルー(B)/アンバー(A)寄り、〈 〉でマゼンタ(M)/グリーン(G)寄りのブラケティングレベルが設定されます。

● ブルー(B)/アンバー(A)寄りと、マゼンタ(M)/グリーン(G)寄りの、どちらかしか設定できません。

--- ' --- ：OFF（解除）

--0 ' 0-- ：± 1 段

-0- ' -0- ：± 2 段

0-- ' --0 ：± 3 段

➡ 表示パネルの撮影可能枚数が約1／3になります。

3 撮影する

➡ 標準色温度、マイナス補正、プラス補正の順に3枚の画像がメモリーカードに記録されます。

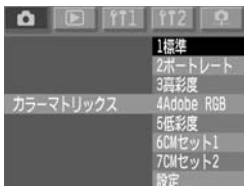
● ホワイトバランスブラケティングを解除するときは、設定を〈_ _ _ ; _ _ _〉に戻します。

● ブルー／アンバーの１段は、色温度変換フィルターの５ミレッドに相当します。
● ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
● 連続撮影のときは、撮影した枚数の3倍の画像が記録されます。
● 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもメモリーカードへの画像記録時間が長くなります。

MENU カラーマトリックスを選択する

カラーマトリックスは、フィルム特性に相当する色の濃さと色あいや、色空間（色の再現領域）を選択できる機能です。

1 ［カラーマトリックス］を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カラーマトリックス**］を選び、ボタンから指を離します。

2 カラーマトリックスを選ぶ

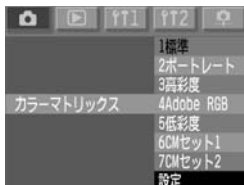
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して内容を選び、ボタンから指を離します。

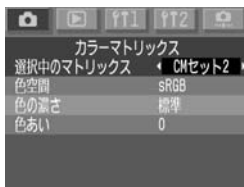
標準	自然な色の濃さと色あいに設定されています。被写体のもつ自然な色を出したいときに効果的です。
ポートレート	ポートレート向きの色あいに設定されています。肌色をきれいに出したいときに効果的です。
高彩度	高彩度なリバーサルフィルムに近い色の濃さに設定されています。くっきりした色を出したいときに効果的です。
Adobe RGB	主に商用印刷などの業務用途で使用します。 画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。 sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、画像処理を行う必要があります。
低彩度	色の濃さが薄めになるよう設定されています。ひかえめな色で表現したいときに効果的です。
CMセット1、2	はじめに、［**設定**］で内容を設定します。
設定	CMセット1、2の設定を行います。

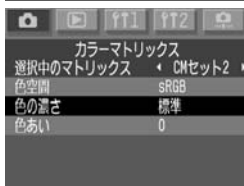
カラーマトリックスを設定する

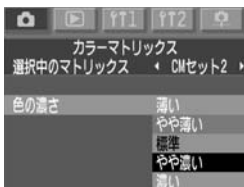
カラーマトリックスの内容（［**色空間**］［**色の濃さ**］［**色あい**］）を任意に設定して、使用することができます。

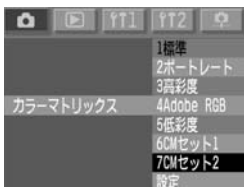
1 ［カラーマトリックス］を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カラーマトリックス**］を選び、ボタンから指を離します。

2 ［設定］を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**設定**］を選び、ボタンから指を離します。

3 CMセット番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**CMセット1**］か［**CMセット2**］を選び、ボタンから指を離します。

4 項目を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して項目を選び、ボタンから指を離します。

5 内容を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して内容を設定し、ボタンから指を離します。
- 〈MENU〉ボタンを押して、手順2の画面に戻ります。

6 CMセット番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して設定したCM セット番号を選び、ボタンから指を離します。

カラーマトリックス設定内容

カラーマトリックス	色空間	色の濃さ	色あい
1 標準	sRGB	標準	0
2 ポートレート	sRGB	標準	-2
3 高彩度	sRGB	濃い	0
4 Adobe RGB	Adobe RGB	標準	0
5 低彩度	sRGB	薄い	0

- [**色あい**] は、マイナス側に設定すると赤色寄り、プラス側に設定すると黄色寄りの色になります。
- Adobe RGB で撮影した画像のファイル番号は、DCF 2.0（Exif 2.21）の規定により、先頭文字が「_（アンダーバー)」になります。

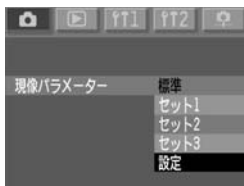
MENU 現像パラメーターを設定する

撮影した画像の現像処理の内容(パラメーター：[トーンカーブ]［シャープネス］［コントラスト］)を、カメラで任意に設定して、3つまで登録·設定することができます。

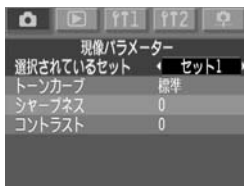
トーンカーブの登録は、付属ソフトウェアで行います。

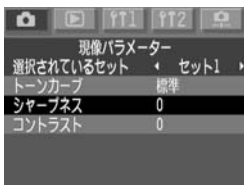
項目	設定効果
トーンカーブ	画像の明るさや色あいなどを変更することができます。
シャープネス	数値が大きくなるほど、輪郭強調が強くなります。
コントラスト	数値が大きくなるほど、明暗差が強くなります。

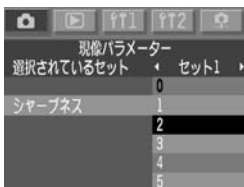
1 [現像パラメーター］を選ぶ

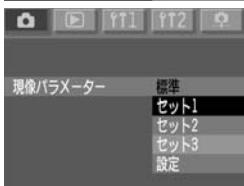
- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**現像パラメーター**］を選び、ボタンから指を離します。

2 [設定］を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**設定**］を選び、ボタンから指を離します。

➡ 現像パラメーター設定画面が表示されます。

3 設定するセット番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**セット1**］～［**セット3**］のいずれかを選び、ボタンから指を離します。

4 項目を選ぶ

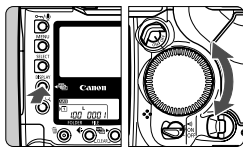
● 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してパラメーターを選び、ボタンから指を離します。

5 内容を設定する

● 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してパラメーターの内容を設定し、ボタンから指を離します。
● 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の状態に戻ります。

6 設定したセット番号を選ぶ

● 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［セット1］～［セット3］のいずれかを選び、ボタンから指を離します。

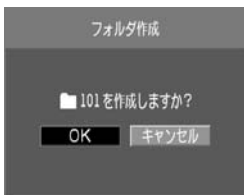
● 現像パラメーターの［標準］の内容は、変更できません。
● トーンカーブの内容設定で表示される［TCD*］は、ToneCurve Data(トーンカーブデータ)の略です。

フォルダとメモリーカードの設定

フォルダの作成や選択を行うことができます。
また、CFカードとSDカードの両方を入れたときは、使用するメモリーカードを選択したり、両方のメモリーカードに同じ画像を記録（バックアップ）したりすることができます。

フォルダモードにする

● 〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、液晶モニター上部の〈■〉を選択してボタンから指を離します。

フォルダを作成する

● 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、［**フォルダ作成**］を選択して、ボタンから指を離します。
➡ フォルダ作成画面が表示されます。
● 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、［OK］を選択してボタンから指を離すと、フォルダが作成されます。

● 左のダブ〈①〉はCFカード、右のタブ〈②〉はSDカードに入っているフォルダを表示しています。
● 〈①〉、〈②〉右横の数値は、メモリーカードの空き容量です。
● 「100EOS1D」はフォルダ番号で、その右の数字は、フォルダ内の画像枚数を示しています。

フォルダ番号が 999 になると、それ以上のフォルダ作成はできません。

パソコンを使ったフォルダ作成

まず、メモリーカードを開いたところに**Dcim**という名称のフォルダを作ります。次に Dcim フォルダを開いたところに撮影画像を保存するフォルダを、必要な数だけ作ります。

撮影画像を保存するフォルダの名称は、**100ABC_D** というように、100 ～ 999 までのフォルダ番号 3 桁に続けて、必ず文字数5 つで名称をつけます。使用できる文字は、半角アルファベット A ～ Z（大文字、小文字混在可）、半角の _（アンダーバー）です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（**100ABC_C**、**100ABC_D** など）をつけたときもカメラがフォルダを認識できません。

フォルダを選択する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、フォルダを選択して、ボタンから指を離します。

➡ フォルダが選択されます。

メモリーカードを選択する

画像の記録／再生／消去を行うメモリーカードを選択します。

- 〈⎘Q〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、メモリーカードを選択して、ボタンから指を離します。
- CF カードは左のタブ［1］、SDカードは右のタブ［2］です。

両方のメモリーカードに同じ画像を記録する（バックアップ）

撮影した画像は、CFカードとSDカードの同じ番号のフォルダに、同じファイル番号、記録画素数、記録画質で記録されます。

1 ［バックアップ］を選ぶ

- 〈ƒƒ1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、［バックアップ］を選択して、ボタンから指を離します。

2 設定する内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、内容を選択して、ボタンから指を離します。
- 1→、←2 のどちらを選んでも両方のメモリーカードに同じ画像が記録されます。

1→と←2の違いについて

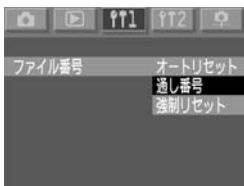
撮影後、どちらのメモリーカードに記録された画像を表示するかを選択します。1→は、CFカードに記録された画像を、←2は、SDカードに記録された画像を表示します。

- バックアップした画像を見つけやすくするため、画像が入っていないフォルダを作成し、選択しておくことをおすすめします。
- 上面表示パネルの撮影可能枚数は、空き容量が少ない方のメモリーカードから算出した枚数になります。
- バックアップ状態にすると、CF カードまたはSD カードに、同じ番号のフォルダが自動作成されることがあります。
- どちらかのメモリーカードがいっぱいになると撮影できなくなります。
- メモリーカード間で画像の移動やコピーはできません。

MENU ファイル番号の設定方式

ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するもので、［**オートリセット**］、［**通し番号**］の2種類があります。撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、選択したフォルダに保存されます。

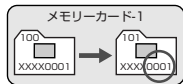
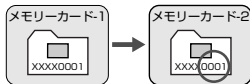
1 ［ファイル番号］を選ぶ

- 〈ff1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**ファイル番号**］を選び、ボタンから指を離します。

2 設定する内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する内容を選び、ボタンから指を離します。

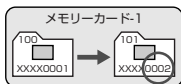
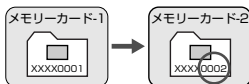
オートリセット

メモリーカードを交換すると、ファイル番号が初期値（**XXXX0001**）に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、**0001**から始まりますので、メモリーカード単位で分類したいときなどに有効です。

フォルダを変更した場合

メモリーカードを交換した場合

通し番号

メモリーカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をパソコンでまとめて管理するようなときに有効です。

フォルダを変更した場合

メモリーカードを交換した場合

- メモリーカードに空きがあっても、ファイル番号が 9999 になると撮影できなくなります。この場合は、液晶モニターに表示されるメッセージに従い、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、[OK] を選択してください。新しいフォルダが作成され、撮影が続けられるようになります。
  シャッターチャンスを逃がしたくない重要な撮影の際は、事前にファイル番号を［強制リセット］しておくことをおすすめします。
- 使用するメモリーカードの中にDCIMフォルダがある場合、そのフォルダに記憶されている最終ファイル番号の続き番号が振られることがあります。

ファイル名について

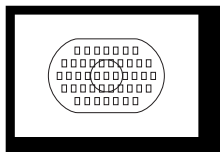
ファイル名は、工場出荷時に決められたカメラ固有の文字と、ファイル番号の組み合わせにより自動的に付けられます。カメラ固有の 4 桁の文字は変更できません。

（例）**5F9Z0001.jpg**

強制リセット

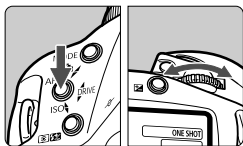
自動的に新しいフォルダを作成して、ファイル番号を初期値（XXXX0001）に戻します。以後、撮影画像は、この新しいフォルダに保存されます。ファイル番号の付け方（オートリセット／通し番号）は、強制リセット前の設定となります。

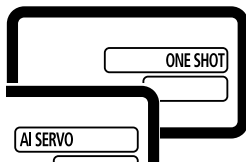
3

オートフォーカスとドライブ

エリアAFフレーム内には、45のAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図に合わせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。

あらかじめ〈 〉スイッチと〈 〉スイッチを〈**ON**〉に設定してください。

AF モードの選択

1 **レンズのフォーカス モードスイッチを〈AF〉にセットする**

2 **AFモードを選択する**

- 〈**AF**〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回し、表示パネルの AFモードを選択してボタンから指を離します。

止まっている被写体を撮るときはワンショット AF

シャッターボタンを半押しするとAF が作動し、1 回だけピントを合わせます

➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが一瞬光り、同時にファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。露出も決まります。

動いている被写体を撮るときは AI サーボ AF

シャッターボタン半押しの状態を保っている間、カメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。

- 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

画面の端の被写体にピントを合わせる

エリアAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。フォーカスロック撮影はAFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

1 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

2 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

3 撮影する

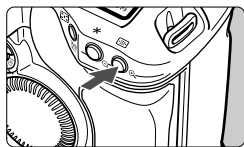
- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このとき、ワンショットAFではシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（73）を参照してください。
- AIサーボAFでAFフレーム自動選択のときは、初めに中央で被写体をとらえます。AF中に被写体が中央から外れても、エリアAFフレーム内で被写体を確実にとらえていればピント合わせを続けます。AFフレームは光りません。
- AI サーボ AF では、ピントが合ってもファインダー内の合焦マークは点灯せず、電子音も鳴りません。

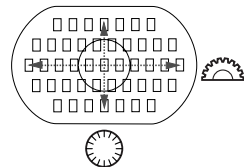
AF フレームの選択

自動選択

45 点のAFフレームの中から、撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

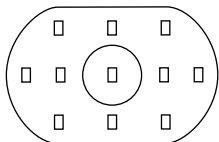
任意選択

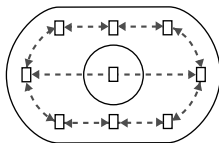
（選択できるAFフレームの数によって3種類あります）
① 45点のAFフレームから任意の1点を選択します。
② 11点のAFフレームから任意の1点を選択します。（C.Fn-13-1, 2）
③ 9点のAFフレームから任意の1点を選択します。（C.Fn-13-3）
＊ ②③はカスタム機能C.Fn-13 を設定して行います(149)。カスタム機能の設定は、MENUの〈 〉で行います。

1 〈 〉ボタンを押す（6）

45点のAFフレーム任意選択

2 AFフレームを選択する

- 〈 〉を回すとAFフレームが横方向に移動します。
- 〈 〉を回すと AF フレームが縦方向に移動します。
- 外周 AF フレームがすべて点灯すると、自動選択になります。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 縦方向のAFフレーム選択は、〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉ボタンを押しながら〈 〉を回すことでも可能です。
- AFフレームが2つ点灯（ ）した状態で撮影すると、2点による自動選択AFになります。また、この状態で左右に移動すると1点ずつの選択になります。

11点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-1, 2 （149）

- 構図優先の撮影に有効な11点のAFフレームが設定されます。
- AFフレームの選択方法は、同じです。

9点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-3 （149）

- エリアAFフレーム外周8点のAFフレームと中央AFフレームが設定されます。
- 横方向のAFフレーム選択方法は、同じです。

  1番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。
- 外周AFフレームの選択は、〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します。

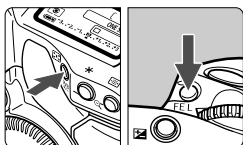
C.Fn-13-1, 2, 3のAFフレーム自動選択は、45の測距点で行われます。

AF フレームの登録と切り換え

よく使うAFフレームをあらかじめ登録しておくことで、他のAFフレームから、瞬時に登録AFフレームへの切り換えができます。すべてのAFフレームが登録対象となります。複数登録はできません。

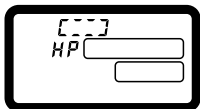
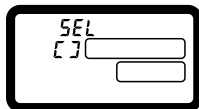
AF フレームの登録

1 AFフレームを選択する

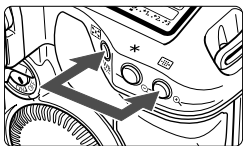
- 〈⊞〉ボタンを押して、〈ダイヤル〉〈◎〉を回します。

2 選択したAFフレームを登録する

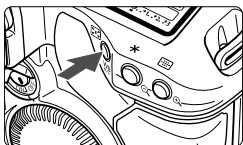
- 〈⊡〉ボタンを押しながら〈FEL〉ボタンを押します。
- ➡ AFフレームが登録されます。
- 登録／切り換え時の表示は、以下のようになります。

自動選択　中央以外のAFフレーム　中央AFフレーム

〔 〕 HP

- ストロボ使用時とスポット測光時は〈⊡〉ボタンを先に押してください。〈FEL〉ボタンを先に押すとAFフレーム選択状態が解除されます。
- 9点のAFフレーム任意選択（C.Fn-13-3）では、登録できません。

登録 AF フレームへの切り換え

初期状態での登録AFフレームへの切り換えは〈⊡〉ボタンと〈⊞〉ボタンの同時押しで行いますが、カスタム機能C.Fn-18-1, 2（151）を設定すると、〈⊡〉ボタン単独押しで切り換えることができます。カスタム機能の設定は、MENUの〈🔧〉で行います。

① 〈⊡〉ボタンと〈⊞〉ボタンの同時押しで切り換え

- カスタム機能を設定しない初期状態の切り換え方法です。

② 〈⊡〉ボタン単独押しで切り換え
C.Fn-18-1 （151）

③ 〈⊡〉ボタン単独押しで、押している間だけ、切り換え
C.Fn-18-2 （151）

- 〈⊡〉ボタンを離すと元の AF フレームに戻ります。

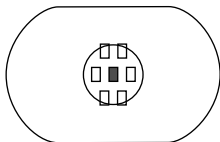
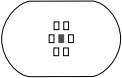
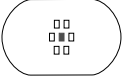
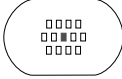
- C.Fn-13 を設定／解除すると、登録AF フレームは中央AF フレームとなります。なお、C.Fn-13-1からC.Fn-13-2 への変更（またはその逆）では、登録AF フレームは変わりません。
- C.Fn-18-1, 2と C.Fn-04-1,3を組み合わせて設定すると〈⊡〉ボタン単独押しで登録 AF フレームへの切り換えとAFスタートを同時に行うようにすることができます。

AF フレームの領域拡大 C.Fn-17

カスタム機能を利用して、任意選択したAFフレームの領域を広げることができます。(C.Fn-17)(150)
カスタム機能の設定は、MENU の〈 〉で行います。

●7点自動選択AFに拡大する C.Fn-17-1 (150)

任意の1点では追従しづらい不規則に変化する被写体を撮影する場合に効果的です。

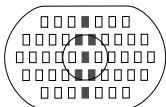
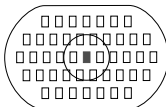
■: 選択したAFフレーム
□: 拡大したAFフレームの領域

- 拡大した AFフレームの領域は表示されません。
- ワンショット AFでピントが合うと、選択した AF フレームと、ピントの合った AFフレームが点灯します。

●7点あるいは13点AFに自動拡大する C.Fn-17-2 (150)

使用レンズの焦点距離や、AFモードに応じて下図のように、AFフレームの領域を自動拡大します。被写体の動きが予測できないような場合に効果的です。

AF モード	使用レンズの焦点距離	
	200mm未満	200mm以上
ワンショットAF	AFフレームの自動拡大は行いません。	1領域拡大
AIサーボAF		

使用レンズの明るさと AF 測距について

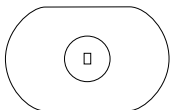
EOS-1D Mark IIのAFは、すべてのAFフレームで被写体の横線成分を検出するのが基本となっていますが、使用するレンズの明るさによっては、さらに高精度なAFピント合わせが可能となっています。

(1)F2.8 よりも明るい大口径レンズ使用時、■で示したAFフレームでは、十字測距（縦線横線同時検出）による高精度AF撮影が、残る38のAFフレームでは横線検出によるAF撮影ができます。
縦線検出は、横線検出の約 3 倍の敏感度で行われます。

(2)単体およびエクステンダーとの組み合わせで F4 より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで十字測距による高精度AF撮影ができます。残る44 のAFフレームでは横線検出のAF 撮影（EF70-200mmF2.8L USM＋エクステンダー EF1.4X除く）ができます。

- EF28-80mm F2.8-4L USM
- EF300mm F4L USM
- EF300mm F4L IS USM
- EF400mm F4 DO IS USM
- EF500mm F4L IS USM
- EF600mm F4L USM
- EF600mm F4L IS USM
- EF70-200mm F4L USM

● エクステンダー EF1.4X、EF1.4X II との組み合わせ：

- EF200mm F2.8L USM
- EF200mm F2.8L II USM
- EF300mm F2.8L USM
- EF300mm F2.8L IS USM
- EF400mm F2.8L USM
- EF400mm F2.8L II USM
- EF400mm F2.8L IS USM
- EF70-200mm F2.8L IS USM

● エクステンダー EF2X、EF2X II との組み合わせ：

- EF135mm F2L USM
- EF200mm F1.8L USM

(3)エクステンダーとの組み合わせで、F8より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。中央以外のAFフレームによるAF撮影はできません。

● エクステンダーEF1.4X、EF1.4X IIとの組み合わせ：
  - EF400mm F5.6L USM
  - EF500mm F4.5L USM
  - EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM
● エクステンダーEF2X、EF2X II との組み合わせ：
  - EF300mm F4L USM
  - EF300mm F4L IS USM
  - EF400mm F4 DO IS USM
  - EF500mm F4L IS USM
  - EF600mm F4L USM
  - EF600mm F4L IS USM
  - EF70-200mm F4L USM
● 〈▦〉ボタンを押すと上面表示パネルに右の表示がでます。 -□- AF

IS 機能の付いていない EF70-200mm F2.8L USM とエクステンダー EF1.4X、EF1.4X IIの組み合わせでは、中央 AFフレームで十字測距による高精度AF 撮影ができます。なお、中央以外のAFフレームでは、測距誤差を生じる場合がありますので、AF撮影しないでください。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
　例：青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
　例：反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
　例：おりの中の動物
(e) 繰り返し模様の被写体
　例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

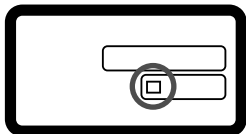
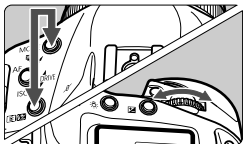
(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

ストロボやST-E2のAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外の AF フレームではピントが合わないことがあります。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉に切り換え、ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- AFフレームを任意に選択して、シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、選択しているAFフレームでピントが合ったときはそのAFフレームが光り合焦マークが点灯します。
- AFフレーム自動選択の場合は、中央のAFフレームでピントが合ったときにAFフレームが光り、合焦マークが点灯します。
- USM（Ultrasonic Motor／超音波モーター）レンズのとき
  USMレンズ（距離目盛りのないUSMレンズをのぞく）はワンショットAFで作動した後そのままフォーカスリングを操作してピントを微調整（フルタイムマニュアル）することができます。

ドライブモードの選択

ドライブモードを選択する

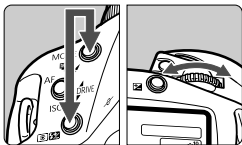
- 〈MODE〉ボタンと〈 〉ボタンを同時に押しながら、〈 〉を回してドライブモードを選択し、ボタンから指を離します。

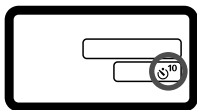
  □　1枚撮影

  □L　低速連続撮影・最高約3コマ／秒

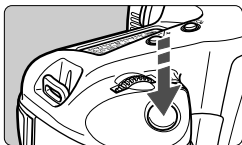
  □H　高速連続撮影・最高約8.5コマ／秒

- 撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次メモリーカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなります。メモリーカードへの記録経過にともない次の撮影が可能となりますので、シャッターボタン半押しでファインダー内右下に表示される「連続撮影時の最大撮影可能枚数」によって、そのとき撮影できる枚数を確認してください。
  なお、「連続撮影時の最大撮影可能枚数」は、メモリーカードを入れていないときにも表示されますので、メモリーカードが入っていることを確認してから撮影してください。
- ファインダー内と表示パネルに「**Card Full**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点灯／点滅が消えてから、メモリーカードを交換してください。

セルフタイマー撮影

1 セルフタイマーを選択する

● 〈MODE〉ボタンと〈◉⚡〉ボタンを同時に押しながら、〈⚙〉を回して、希望するセルフタイマーを選択し、ボタンから指を離します。

⏲10：10秒タイマー
⏲2：2秒タイマー

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいてシャッターボタンを半押しし、合焦マークの点灯と露出表示を確認します。

3 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマーランプが点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

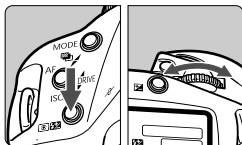
● セルフタイマー撮影するときは、三脚をお使いください。
● セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈⊜〉スイッチを〈OFF〉にします。
● 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（65）して撮影します。
● 2秒タイマーは接写や複写撮影時のカメラブレ（シャッターボタンを押したときにカメラがわずかに揺れること）を防ぐときなどに有効です。

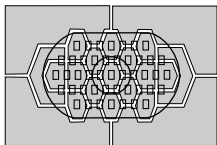
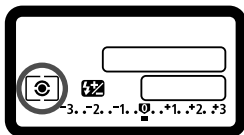
4

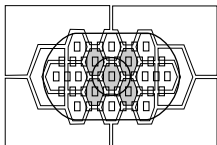
写真表現に合わせた露出制御

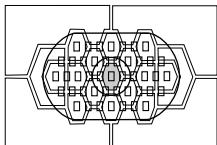
被写体や撮影目的に合わせて、最適な測光／ドライブ／撮影モード（**P**／**Tv**／**Av**／**M**）を選択することができます。そして、簡単な操作でさまざまな撮影を行うことができます。

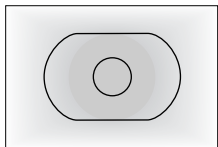
あらかじめ〈 〉スイッチを〈**ON**〉に設定してください。また、必要に応じ、〈 〉スイッチを〈**ON**〉に設定してください。

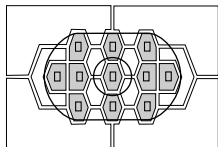
測光モードの選択方法

測光モードを選択する

● 〈 〉ボタンを押しながら〈 〉を回して測光モードを選択し、ボタンから指を離します。

評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラの構え方に応じてカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約13.5%の範囲を測光します。

スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約 3.8% を測光します。

〔〕中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均に測光します。

AFフレーム連動スポット測光

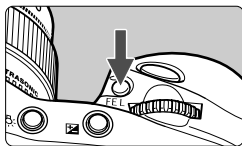
機動性を上げるためカスタム機能C.Fn-13の設定によってエリアAFフレーム内の45点のAFフレームを11点（C.Fn-13-1）、または9点（C.Fn-13-3）に限定し、任意に選択したAFフレームの周囲のみ（ファインダーの約3.8%の範囲）を測光します。（67, 149）

ストロボ使用時に〈[測光]〉ボタンを押しながら〈[ダイヤル]〉を回すと、ストロボの調光補正を行うことができます。

マルチスポット測光

撮影画面の複数の場所をスポット測光し、その場所が相対的にどのような露出になるかを考えながら、自分のねらい通りの最終露出を決めることができます。

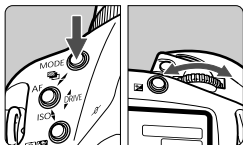
1 スポット測光にする(78)

(78)

2 〈FEL〉ボタンを押す

- 相対的な露出レベルを知りたい場所にスポット測光範囲マークをあわせ、〈FEL〉ボタンを押します。
- ➡ ファインダー右に、スポット測光した場所の相対的な露出レベルが表示されます。
  露出値は、スポット測光した場所の平均値が設定されます。

- この状態で露出補正を行うと、3点の露出レベル表示全体を見ながら、表現意図に合わせた最終露出を決めることができます。

- スポット測光は8点まで行うことができます。9点目からは〈FEL〉ボタンを押しても測光は行われません。
- マルチスポット測光による露出値の記憶は次の条件で解除されます。
  (1) スポット測光後、16秒経過したとき。
  (2)〈[測光][調光]〉ボタン、〈MODE〉ボタン、〈AF〉ボタンを押したとき。
  (3) 撮影後、シャッターボタンから指を離したとき。
- マルチスポット測光は中央部スポット測光と AF フレーム連動スポット測光で利用できます。

P プログラム AE 撮影

1 表示パネルの〈P〉を選択する

● 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈P〉を選択し、ボタンから指を離します。

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいてエリア AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ ピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが一瞬光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。同時にファインダー内に緑色の合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ 表示パネルとファインダー内に露出値が表示されます。

3 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

● 数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

● 「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。または、ストロボを使用してください。

● 「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。または、減光用のNDフィルターを使用してください。

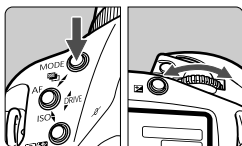
● AFフレームが自動選択（66）になっている場合は、同じピント位置のAFフレームが複数点灯します。
● **P**は、Program（プログラム）の略です。
● AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
● 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、シャッターが切れません。
● 露出を変えずに、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変更することができます。これをプログラムシフトといいます。シャッターボタンを半押しした後〈ダイヤル〉を回して、希望するシャッター速度または絞り数値に設定します。
プログラムシフトは撮影すると解除されます。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。
＊ **Tv** とはTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

速いシャッター速度

遅いシャッター速度

---

1 上面表示パネルの〈**Tv**〉を選択する

● 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈**Tv**〉を選択し、ボタンから指を離します。

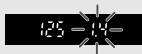
2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くします。または、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くします。または、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

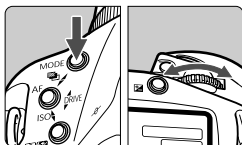
「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は 1/125 秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5 秒を、「**15"**」は 15 秒を表しています。

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。
絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

＊ **Av**とはAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

小さい絞り数値

小さい絞り数値

1 上面表示パネルの〈**Av**〉を選択する

● 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈**Av**〉を選択し、ボタンから指を離します。

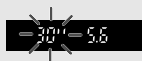
2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ シャッター速度が自動的に決まります。

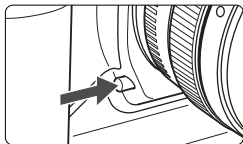
4 表示を確認して撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

● シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を小さくします（絞りを開く）。または、ISO感度を上げます。

● シャッター速度の「**8000**」が点滅しているときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を大きくします（絞りを閉じる）。またはISO感度を下げます。

絞り数値の表示

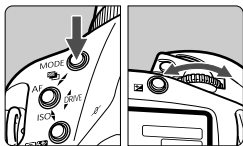
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「**00**」を表示します。

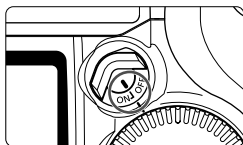
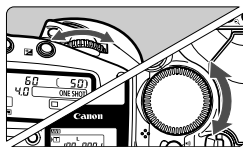
被写界深度を確認する

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

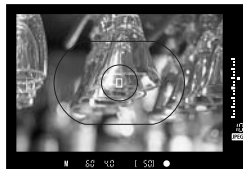
絞り込みボタンを押すと露出が固定された（AE ロック）状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用し自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊**M**は、Manual（マニュアル）の略です。

1 上面表示パネルの〈**M**〉を選択する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して〈**M**〉を選択し、ボタンから指を離します。

2 〈⊘〉スイッチを〈ON〉に設定する

3 〈⚙〉でシャッター速度を、〈◎〉で絞り数値を設定する

- 絞り数値を〈☒〉ボタンと〈⚙〉で設定することもできます。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。
- ファインダー内右側の露出レベルマーク〈□〉で標準露出〈▭〉からどのくらいずれているか確認することができます。

露出レベル表示

5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

6 撮影する

露出レベルが上端、または下端で点滅しているときは、露出が±3 段を超えていることを示しています。

自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にしたりして撮影できます。設定できる補正量は1/3段ステップで±3段の範囲です。

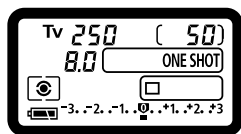
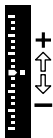
あらかじめ、〈 〉スイッチを〈ON〉に設定しておきます。

1 シャッターボタンを半押しする（6）

● 露出表示を確認します。

2 〈 〉を回して希望する補正量を設定する

➡ 表示パネルに露出レベル〈■〉が、ファインダー内に露出補正表示〈 〉と露出レベル〈□〉が表示されます。

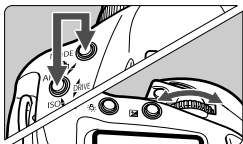
● 露出補正を解除するときは露出レベルを標準露出指標（〈0〉または〈 〉）の位置に戻します。

3 撮影する

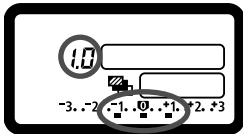
● 露出補正は、〈 〉ボタンを押して（6）、〈 〉を回すことでも設定できます。
● 設定した補正量は〈 〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
● 不用意に〈 〉が動いて補正量が変わらないようご注意ください。〈 〉スイッチを〈OFF〉にすると安全です。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

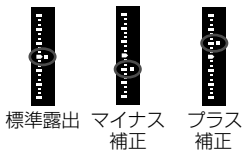
1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的に露出を変えながら3枚の撮影をすることができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。AEB撮影には、シャッター速度、または絞り数値を自動的に変えて露出を変えるAEB 撮影と、シャッター速度と絞り数値は固定のままで、ISO感度を変えて露出を変えるAEB撮影があります。

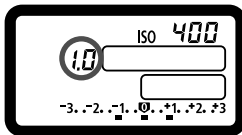
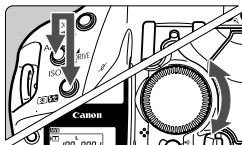
シャッター速度／絞り数値を変えての AEB 撮影

標準露出　マイナス補正　プラス補正

1 AEBレベルを設定する

- 〈MODE〉ボタンと〈AF〉ボタンを同時に押しながら、〈 〉を回して設定します。
- 図は標準露出を中心に1段補正したときの表示パネルです。AEB ステップ量（1.0）と AEB レベル〈■〉、〈 〉が表示されます。

2 撮影する

➡ ファインダー内の露出レベル表示には、撮影順に補正位置が表示されます。

- 設定しているドライブモードに従って撮影されます。
- 3 コマ撮影後でも、AEB 撮影は解除されません。解除するときは、ステップ量を「**0.0**」に戻します。

ISO 感度を変えての AEB 撮影

標準露出となるISO感度を事前に設定しておいてください。例えば±1段でISO 200／400／800のAEB撮影を行うときには、ISO 400に設定しておきます。

AEBレベルを設定する

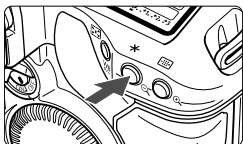
- 〈AF〉ボタンと〈◉⚡〉ボタンを同時に押しながら、〈◎〉を回して設定します。
- 図は標準露出を中心に1段補正したときの表示パネルです。AEB ステップ量とAEB レベル〈■〉、〈ISO〉が表示されます。
- 撮影は、シャッター速度／絞り数値を変えての AEB 撮影と同様に行われます。

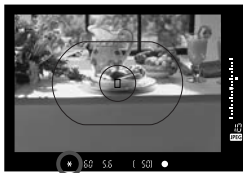
- ストロボ撮影、バルブ撮影、シャッター速度/絞り数値を変えてのAEB撮影、ISO感度を変えてのAEB撮影は併用できません。
- AEB 撮影は、設定できるシャッター速度（1/8000 ～ 30 秒）と絞り数値、ISO感度（100～1600）の範囲内でのみ行われます。ISO感度拡張を［入］にしていても、ISO 50、3200相当の補正は行いません。
- カスタム機能C.Fn-06-2 で露出設定ステップを1/2 段にすると、ISO感度を変えてのAEB撮影ができなくなります。

- 連続撮影に設定しているときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動停止します（ミラーアップ撮影時除く）。
- セルフタイマーを併用したときは、2 秒または10秒後、自動的に3 枚連続撮影されます。
- ドライブモードが1枚撮影の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。
- AEB 撮影中は、ファインダー内の〈✱〉と、表示パネル内の〈◪〉、または〈ISO〉が点滅します。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

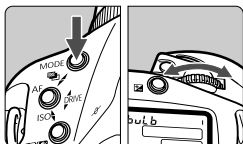
1 ピントを合わせる

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱6）

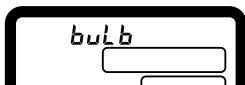
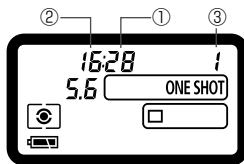
- 露出を合わせたい被写体をファインダー中央において〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出値が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。

3 構図を決めて撮影する

- AEロックした露出値と新しい露出値がリアルタイムで表示されます。
- 連続してAEロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

1点に的確にAEロックを行う場合は部分測光またはスポット測光の使用をおすすめします。（78）

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 表示パネルに「buLb」を表示する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して「**buLb**」を表示し、ボタンから指を離します。

2 〈⚙〉で絞り数値を設定する

3 撮影する

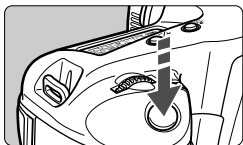
- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。
  ①：秒、②：分、③：時間

- 長時間露光の撮影では、撮影画像にノイズが含まれる場合があります。メニュー機能〈📷〉タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］でノイズを軽減させることができます。
- バルブ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

表示パネルの照明

カメラ右上の〈☀〉ボタンを押すたびに照明が点いたり消えたりします。バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで消えます。

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-12（149）を設定すると、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影を行うことができます。ミラーショックが気になる接写や超望遠レンズを使用するときにご活用ください。カスタム機能の設定は、MENUの〈 〉で行います。

1 シャッターボタンを全押しする

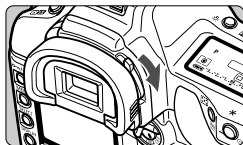
➡ ミラーアップします。

2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでのミラーアップ撮影では、ミラーアップ安定後速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーは、併用できません。セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。

- ミラーアップ撮影は、ドライブモードの設定（1枚撮影・連続撮影）にかかわらず1枚撮影（□）になります。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。
- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の併用をおすすめします。

アイピースシャッターについて

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときはアイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作して、ファインダーを遮光します。

ストロボを使った撮影

EX シリーズスピードライトでの撮影

このカメラは、EOS専用EX シリーズスピードライトを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。詳しい操作方法につきましては、各EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

●E-TTL II 自動調光

E-TTL II は、調光制御方式の改善とレンズ距離情報の活用により、従来のE-TTL（プリ発光・記憶式評価調光)以上の高精度ストロボ調光を実現した、新自動調光システムです。このカメラでは、どのEX スピードライトを使用しても、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

●ハイスピードシンクロ（FP発光）

30秒から1/8000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

●FE（Flash Exposure）ロック

カメラの〈FE L〉ボタンを押すと、被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

●ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

●FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます（FEB対応ストロボのみ)。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

●ワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由で高度なライティング設定が可能です（ワイヤレス対応ストロボのみ)。

ストロボメータードマニュアル撮影

手動で調光レベルを決める近接撮影向けの機能です。マニュアル発光できるEXシリーズスピードライトを使って以下のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉に設定します。
- ストロボは、マニュアル発光に設定します。

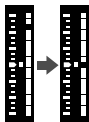
2 ピントを合わせる

- 手動ピント合わせで被写体にピントを合わせます。

3 中央部スポット測光範囲を被写体に合わせて〈FEL〉ボタンを押す（⏱16）

➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
➡ ファインダー内右の露出レベル表示に、適正調光レベルに対する調光レベルが表示されます。

4 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるよう、ストロボのマニュアル発光レベルと絞り数値を設定します。

5 撮影する

TTL、A-TTL 自動調光スピードライトでの撮影

- TTL、A-TTL自動調光のEZ/E/EG/ML/TL シリーズスピードライトをTTL、A-TTL 自動調光状態で使用すると常時フル発光します。カメラの撮影モードをマニュアル露出、または絞り優先 AE に設定すると、絞り数値を変えてのマニュアル・フル発光撮影を行うことができます。なお、ストロボ側の表示は、TTL、または A-TTL 自動調光状態のままです。
- 550EX のカスタム機能 C.Fn-03-1 を設定して、TTL 自動調光にしているときにも常時フル発光となります。

汎用ストロボでの撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは 1/250秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは 1/125秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。
- このカメラのシンクロ端子には極性がありませんので、お使いのシンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。同様に、カメラのシンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるものも使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

5

撮影画像の再生

撮影した画像を見る方法や削除の方法、また録音の方法について説明します。

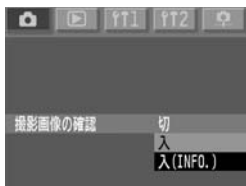
他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影した後にパソコンなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できない場合があります。

MENU 撮影画像を見る

撮影直後の画像を、カメラ背面の液晶モニターですぐに確認することができます。表示の方法には、撮影画像が表示される［入］、撮影画像と撮影情報を表示する［入（INFO.)］、表示しない［切］の3種類があります。

1 ［撮影画像の確認］を選ぶ

- 〈📷〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［撮影画像の確認］を選び、ボタンから指を離します。

2 設定する内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する内容を選び、ボタンから指を離します。

3 撮影する

➡ 撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

［入］の場合

［入（INFO.)］の場合

撮影画像の確認時間

撮影直後の画像確認時間を設定することができます。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- 〈◘〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**撮影画像の確認時間**］を選び、ボタンから指を離します。

2 設定する内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する内容を選び、ボタンから指を離します。

［**ホールド**］に設定したときの表示時間は、オートパワーオフ（33）で設定した時間の半分になります。なお、オートパワーオフ［**切**］に設定したときの表示時間は15分となります。

MENU 縦横自動回転表示

縦位置撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいよう、画像を自動回転させて表示することができます。

自動回転表示は、[縦横自動回転表示]［入］の設定で撮影した画像のみ可能です。[切] の設定で撮影した画像は、自動回転表示できません。

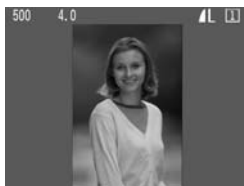
1 [縦横自動回転表示] を選ぶ

- 〈ƒƒ1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**縦横自動回転表示**］を選び、ボタンから指を離します。

2 設定する内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**入**］を選び、ボタンから指を離します。

3 縦位置で撮影する

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は自動回転表示されません。

4 画像を再生する

- 〈DISPLAY〉ボタンを押します。
- ➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

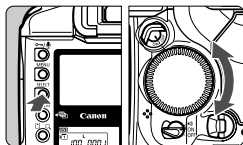
> カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されない場合があります。

> カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

撮影した画像を再生する

撮影した画像を自由に選択して、1枚表示や撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示などで見ることができます。

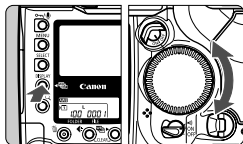
1 画像を再生する

- 〈DISPLAY〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 画像を選ぶ

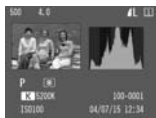
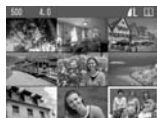
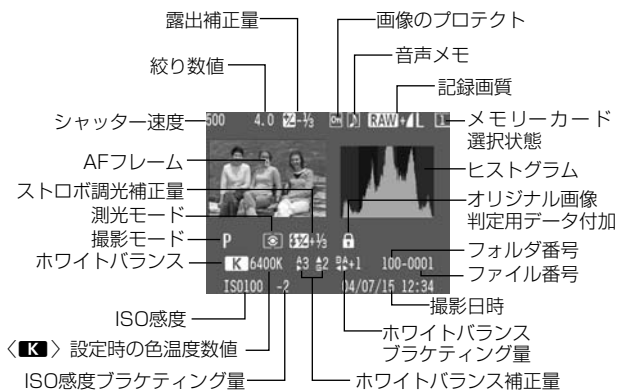
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。左に回すと、最後に撮影された画像から新しい順に画像が切り換わります。右に回すと、古い画像から順番に新しい画像が表示されます。

- 再生状態のままカメラを放置すると、オートパワーオフ（33）で設定した半分の時間で再生が終了します。なお、オートパワーオフ［切］に設定したときは 15 分で再生が終了します。
- 画像の再生は、フォルダ単位で行います。ほかのフォルダに入っている画像を再生するときは、フォルダを選んでから（59）再生してください。

画像の表示形式を変える

1 画像を再生する

2 画像の表示形式を変える

- 〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。
- ➡ 液晶モニターの画像表示形式が変わります。
- 希望する画像表示形式が表示されたら、ボタンから指を離します。

画像表示形式

撮影情報表示	1枚フル表示	4枚インデックス表示	9枚インデックス表示

撮影情報表示について

MENU ハイライト警告表示について

メニュー機能〈▶〉タブの［**ハイライト警告表示**］を［**入**］に設定すると、撮影情報表示と1枚フル表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分を点滅表示します。
階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

MENU AFフレームについて

メニュー機能〈▶〉タブの［**AF フレーム表示**］を［**入**］に設定すると、撮影情報表示の画像に、AFフレームを表示します。（32）
ワンショットAF撮影の画像では、ピントの合ったAFフレームを表示します。なお、AF フレーム自動選択で撮影したときは、ピントの合ったAFフレームが複数表示されることがあります。
AIサーボAF撮影の画像では、選択したAFフレームを表示します。

MENU ヒストグラム

メニュー機能〈▶〉タブの［**ヒストグラム表示**］で、［**輝度**］、または［**RGB**］の表示を選ぶことができます。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。
ヒストグラムでは、画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。
横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。
再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多いとき

普通の明るさのとき

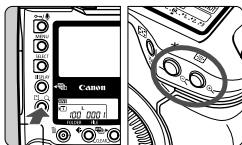
明るい成分が多いとき

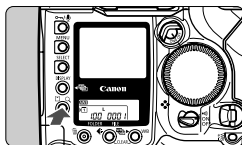
［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。
RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

拡大ズーム表示

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

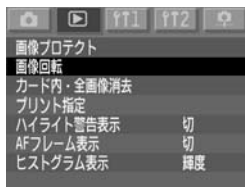
1 拡大したい画像を表示する

2 画像を拡大／縮小表示する

- 〈Q〉ボタンを押しながら〈⊕〉ボタンを押すと拡大表示に、〈Q〉ボタンを押しながら〈⊖〉ボタンを押すと縮小表示になります。
- 画面右下に拡大表示位置が表示されます。

3 表示位置を移動する

- 〈Q〉ボタンを押しながら〈⌒〉を回すと表示位置が左右に、〈Q〉ボタンを押しながら〈◎〉を回すと上下に移動します。
- 拡大表示を終了するときは、〈DISPLAY〉ボタンを押します。

拡大表示中に〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［画像回転］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ 画像回転画面になります。

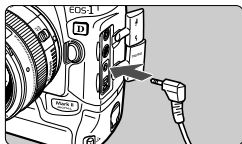
2 回転させたい画像を選ぶ

3 画像を回転させる

- ➡〈SELECT〉ボタンを押して離すたびに、時計方向に回転します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了してメニューに戻ります。

- 〈Q〉ボタンを押しながら〈Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。
- オリジナル画像判定用データ（P.Fn-31）の付加された画像は、回転できません。

撮影した画像をテレビで見る

お使いのテレビ方式（NTSCかPAL）にあわせて、メニュー機能〈ƳƬ2〉タブの［**ビデオ出力方式**］を［**NTSC**］か［**PAL**］に切り換えてください。また、接続の際は、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

1 カメラをテレビに接続する

- カメラの端子カバーを開けます。
- カメラのビデオ出力〈VIDEO OUT〉端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする

3 カメラの〈⊜〉スイッチを〈ON〉にする

4 〈DISPLAY〉ボタンを押す

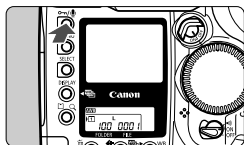
➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 見終わったら、〈⊜〉スイッチを〈**OFF**〉にし、テレビの電源をオフにしてから、ビデオケーブルを外します。

- テレビを見ながら液晶モニターと同じように画像を見たり、メニュー設定を行うことができます。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、画面表示がケラレることがあります。

⊶ 撮影画像にプロテクトをかける

1 枚ずつプロテクトをかける

大切な画像を間違って消さないように、プロテクトをかけることができます。

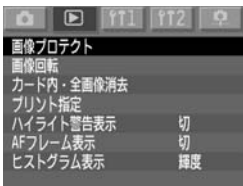
1 プロテクトをかけたい画像を表示する

2 プロテクトをかける

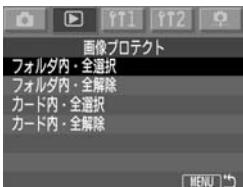
- 〈⊶/🎙〉ボタンを押します。
- ➡ プロテクトが設定されると〈⊶〉が表示されます。
- 再度、〈⊶/🎙〉ボタンを押すとプロテクトが解除され、〈⊶〉が消えます。
- 撮影直後の画像確認中に、〈⊶/🎙〉ボタンを押してプロテクトをかけることもできます。

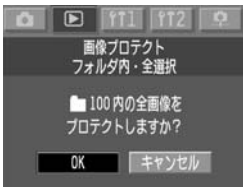
- プロテクトをかける際に〈⊶/🎙〉ボタンを約2 秒間押したままにすると、録音機能（112）が働き、プロテクトをかけることができません。プロテクトをかける際は、〈⊶/🎙〉ボタンを押してすぐに指を離してください。
- メモリーカードを初期化すると、プロテクトをかけた画像も消去されますので、ご注意ください。

- プロテクトは、どの表示形式でもかけることができます。
- プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去（114, 115）を行うと、プロテクト をかけた画像以外は、全て消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。

MENU プロテクトを一括してかける／解除する

選択しているフォルダ（59）内に記録されているすべての画像や、選択しているメモリーカード内に記録されているすべての画像に対し、一括してプロテクトをかけたり、解除したりすることができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

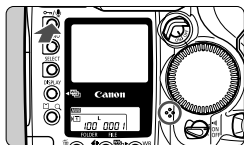
- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**画像プロテクト**］を選び、ボタンから指を離します。

2 プロテクトの内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して内容を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ プロテクト確認画面が表示されます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。

プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。

記録画像に音声を録音する

記録画像に音声を録音することができます。録音した音声は、音声データとして画像ファイルに記録され、付属ソフトウェアで再生することができます。

1 音声を録音したい画像を表示する

マイク

2 録音する

- 〈○-ɪ/🎙〉ボタンを約2秒間押したままにします。
- ［**録音中 …**］が表示されたら、〈○-ɪ/🎙〉ボタンを押したまま、録音マイクに向かって話します。一度に録音できる時間は30 秒です。
- 話し終わったら、ボタンから指を離します。
- ➡ 音声が録音された画像には、〈♪〉が表示されます。

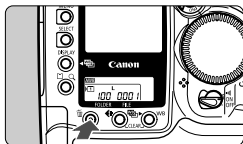
- 音声録音は、どの表示形式でも行うことができます。
- プロテクトされている画像には録音できません。
- このカメラでは音声再生できません。
- 30 秒以上の録音を行うときは、再度、手順 2 を繰り返してください。
- 撮影直後の画像確認中に、手順 2で 1 回だけ録音を行うことができます。

撮影画像を消去する

画像を消去する方法には、〈🗑〉ボタンによる1枚消去、フォルダ内の全画像消去と、メニュー機能によるメモリーカード内の全画像消去があります。なお、プロテクトをかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚消去

1 消去する画像を表示する

2 〈🗑〉ボタンを押す

- 画面の下に消去メニューが表示されます。〈🗑〉ボタンをもう一度押すと消去メニューが消えます。

3 消去する

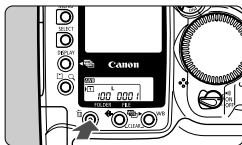
- 〈🗑〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ アクセスランプが点灯／点滅して画像が消去されます。

撮影直後の画像確認中に、手順 2、3 で表示中の画像を消去することができます。

㓞 フォルダ内の全画像消去

1 画像を消去するフォルダを選ぶ
(59)

2 再生する

- 〈DISPLAY〉ボタンを押します。
- フォルダ選択画面が表示されたときは、〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して再生状態にします。どの画像表示形式でもかまいません。

3 〈㓞〉ボタンを押す

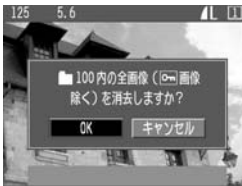
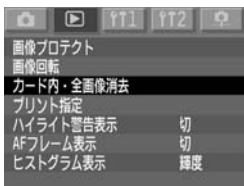
- 画面の下に消去メニューが表示されます。

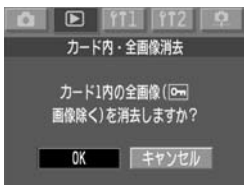
4 消去メニューの［ALL］を選ぶ

➡ 〈㓞〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［ALL］を選び、ボタンから指を離します。
➡ 確認画面が表示されます。

5 消去する

- 〈㓞〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。

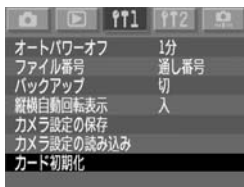
➡ アクセスランプが点灯／点滅して、プロテクトをかけていない、すべての画像が消去されます。

MENU メモリーカード内の全画像を消去する

1 ［カード内・全画像消去］を選ぶ

- 〈▶〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カード内・全画像消去**］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

2 消去する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**OK**］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ プロテクトされていない、すべての画像が消去されます。
- 画像の消去が完了するとメニュー画面に戻ります。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

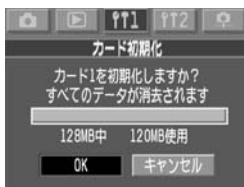
MENU メモリーカードを初期化する

メモリーカードを初期化すると、メモリーカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、メモリーカード内の記録内容を十分に確認してから行ってください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンへ保存してください。

1 [カード初期化] を選ぶ

- 〈ƒƒ1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して [**カード初期化**] を選び、ボタンから指を離します。

2 初期化するカードを選ぶ

- [**カード 1**] は CF カード、[**カード 2**] は SD カードです。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してカード番号を選び、ボタンから指を離します。

➡ 確認画面が表示されます。

3 [OK] を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して [**OK**] を選び、ボタンから指を離します。

➡ メモリーカードが初期化されます。

➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

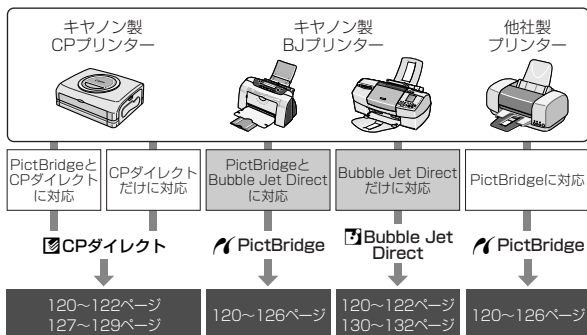
- キヤノン製以外のメモリーカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したメモリーカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、必ずこのカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 初期化の画面で表示されるメモリーカードの総容量は、メモリーカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

「Card Err」が表示されたときは

表示パネルに「**Card Err**」(カードエラー警告)が表示された場合は、メモリーカードに何らかの障害が発生して、記録／読み出しができない状態になっています。
別のメモリーカードに交換してください。
カードリーダー (市販品) を使用して、パソコンでメモリーカードの内容が読み取れる場合は、メモリーカード内の撮影データをすべてパソコンに保存してください。
すべての撮影データがパソコンに保存されたことを確認したら、メモリーカードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

6

カメラダイレクトプリント

ダイレクトプリント標準規格の「〈 〉PictBridge（ピクトブリッジ)」対応プリンターと、キヤノン独自規格の「〈 〉**CPダイレクト**」、「〈 〉Bubble Jet Direct（バブルジェットダイレクト)」対応プリンターで印刷する方法について説明しています。

プリントの準備をする

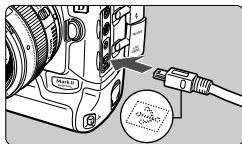
ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、すべてカメラ側で行います。
また、操作画面での操作方法は、メニュー機能の項目や内容を選択／設定するときと同じです。詳しくは、『メニュー機能の操作と設定』（30）を参照してください。

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- 次ページの表（プリンターとケーブルについて）を参照して、使用するケーブルを選んでください。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

- RAW 形式の画像は、ダイレクトプリントできません。
- ダイレクトプリント中はケーブルを取り外さないでください。

プリンターとケーブルについて

接続するプリンター		使用するケーブル
	PictBridgeだけに対応	**カメラに付属のケーブル** 両方のプラグに〈 〉マークが付いています
	PictBridgeと CPダイレクトに対応	
	PictBridgeと Bubble Jet Directに対応	
	CPダイレクトだけに対応	**プリンターに付属のケーブル** 片方のプラグだけに〈 〉マークが付いています
	Bubble Jet Directだけに対応	

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種によっては、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターと接続されていることを示すマーク〈 、 、 〉が表示されます。

● 表示されるマークによって、操作方法が異なります。表示されるマークに応じたページを参照してください。

PictBridge

CPダイレクト

Bubble Jet Direct

マーク	ダイレクトプリントの種類	参照ページ
	PictBridge	123～126
	CPダイレクト	127～129
	Bubble Jet Direct	130～132

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。なお、プリントする際はバッテリーの残量に注意してください。
- 手順5 で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、PictBridge対応プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。
  1.〈SELECT〉ボタンを押す
  2.プリント設定画面で［**プリント**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。『**エラーメッセージについて**』（126）を参照して問題を解決してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

ダイレクトプリントを行うときは､カメラの電源にDC カプラーキットの使用をおすすめします。

Windows XP、またはMac OS X（10.1 以降）をお使いの方へ
カメラとパソコンを、カメラに付属のUSBケーブルで接続すると、このカメラが対応している PTP（Picture Transfer Protocol）機能で、カメラ内のメモリーカードに保存されたJPEG画像をパソコンへ取り込むことができます。
詳しくは、別紙の「PTP機能でJPEG画像を取り込む」と､「PTP機能に関するご注意」を参照してください。

PictBridge でプリント

使用するプリンターによって設定できる内容が異なります。また、設定そのものができない場合があります。詳しくは、使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。

2 〈SELECT〉ボタンを押す

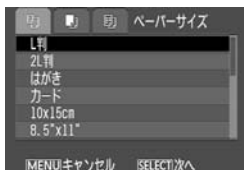
➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

*** 使用するプリンターの機種によっては、日付やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 [ペーパー設定] を選ぶ

➡ ペーパー設定画面になります。

ペーパーサイズの設定

● プリンターにセットされているペーパー（用紙）のサイズを選びます。

ペーパータイプの設定

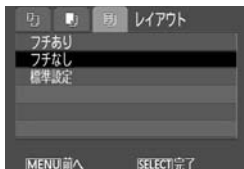
● プリンターにセットされているペーパー（用紙）のタイプを選びます。

ペーパー（用紙）タイプについて

キヤノン製プリンターで、キヤノン純正用紙を使うときは、次のように設定してください。

フォト	スーパーフォトペーパー
高級フォト	プロフォトペーパー
標準設定	スーパーフォトペーパー

他社製のプリンターをお使いのときは、プリンターの使用説明書を参照してください。

レイアウトの設定

● 希望する印刷レイアウトを選びます。

➡ プリント設定画面に戻ります。

レイアウトについて

フチあり	用紙のまわりに余白をつけてプリントします。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいにプリントします。 「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」でプリントされます。
8面配置	用紙1枚に同じ画像を小さく8画面プリントします。
標準設定	キヤノン製プリンターでは、「フチなし」でプリントされます。

4 その他の項目を設定する

● 必要に応じて〈⊙〉日付プリント、〈▨〉プリント効果、〈⧉〉プリント枚数を設定します。

⊙［日付プリント］

▨［プリント効果］

⧉［プリント枚数］

● BJプリンターの機種によっては、〈▨〉プリント効果で、［VIVID］（緑や青空を鮮やかに印刷）、［NR］（ノイズリダクション）、［VIVID+NR］が選択できます。
● トリミングについては、133 ページを参照してください。

5 プリントする

● ［プリント］を選びます。
➡ プリントが開始されます。
● プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
● プリントを中止するときは、［中止］が表示されている間に〈SELECT〉ボタンを押して、［OK］を選びます。

- プリントする画像のサイズや記録画質によっては、[**プリント**] を選んでから実際にプリントが始まるまで、しばらく時間がかかります。
- プリント効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定するプリント内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、プリンター側を操作してプリントを再開してください。プリントの再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SELECT〉ボタンを押してプリントを中止し、問題を解決してから再度プリントしてください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

ペーパーエラー

プリンターのペーパー（用紙）が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

プリンターのインク残量や、廃インクタンクの状態を確認してください。

ハードウェアエラー

ペーパー（用紙）、インク以外の問題がプリンターに発生していないか確認してください。

ファイルエラー

PictBridge でプリントできない画像をプリントしようとしました。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、プリントできないことがあります。

CP ダイレクトでプリント

1 プリントする画像を選ぶ

● 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。

2 〈SELECT〉ボタンを押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

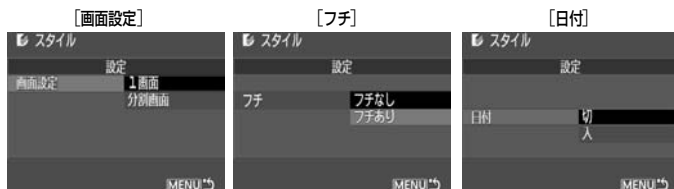
3 ［スタイル］を選ぶ

➡ スタイル設定画面になります。

4 項目を設定する

● ［**画面設定**］［**フチ**］［**日付**］の設定状態を確認し、必要に応じて設定します。

［**フチ**］

［**日付**］

● ［**画面設定**］は、カードサイズのペーパー（用紙）使用時に選択できるようになります。［**分割画面**］を選ぶと、用紙 1枚に同じ画像を小さく 8 画面プリントします。
● ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
● 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

5 プリント枚数、トリミングの設定をする

● 必要に応じて設定します。
● トリミングについては、133 ページを参照してください。

6 プリントする

- ［プリント］を選びます。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［中止］が表示されている間に〈SELECT〉ボタンを押して、［OK］を選びます。

- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、日付が薄く印刷されることがあります。
- ［分割画面］を選ぶと、［フチ］［日付］の設定はできません。［フチなし］、［日付］は［切］でプリントされます。また、画像の上下左右がカットされてプリントされます。

- ［日付］を［入］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［中止］を選んだ場合、プリント枚数が1枚のときはプリントを中止できません。2枚以上のときは次のプリントから中止されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［中止］または（問題を解決したあとで）［再開］を選びます。［再開］が表示されないときは、［中止］を選びます。

Bubble Jet Directでプリント

プリンター接続表示

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。

2 〈SELECT〉ボタンを押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

プリント範囲枠：画面がカットされるときに表示されます

設定されているプリントスタイルが表示されます。〈 〉は日付のマークです

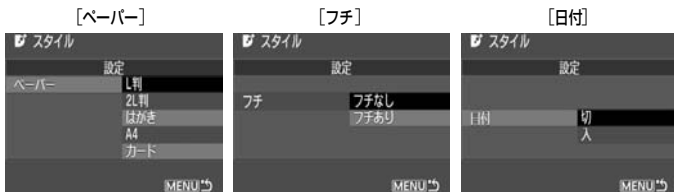
3 [スタイル］を選ぶ

➡ スタイル設定画面になります。

4 項目を設定する

［ペーパー］

［フチ］

［日付］

- ［ペーパー］は、プリンターにセットされているペーパー（用紙）のサイズを選びます。
- ［フチ］［日付］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

5 プリント枚数、トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、133 ページを参照してください。

6 プリントする

- ［プリント］を選びます。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［中止］が表示されている間に〈SELECT〉ボタンを押して、［OK］を選びます。

［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［**中止**］を選ぶと、プリントが中止され、プリント中のペーパー（用紙）が排紙されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または **続行**］を選びます。［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、問題を解決すると自動的にプリントを再開します。
- 操作パネルがある BJ プリンターを使用しているときは、エラー発生時にエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

トリミング（プリント範囲）の設定

画面を部分的に拡大したプリントや、構図を変えたような感じでプリントすることができます。
トリミングの設定は、プリントする直前に行ってください。トリミングを設定したあとでプリント設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 ［トリミング］を選ぶ

➡ トリミング画面になります。

2 トリミングする

- トリミング枠の内側がプリントされる範囲です。
- 操作案内表示は、トリミング操作中消えます。操作をやめて約5秒経過すると再表示します。

枠の大きさを変える／枠を移動する

- 画像の拡大/縮小と同じ操作方法で、トリミング枠の大きさの変更と、枠の移動を行います。
  詳しくは、『拡大ズーム表示』（107）を参照してください。

枠を回転する

- 〈⊶/🎙〉ボタンを押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。

プリント範囲

3 設定を終了する

● 〈SELECT〉ボタンを押します。
➡ プリント設定画面に戻ります。
➡ 画面左上でプリント範囲を確認することができます。

● プリンターの機種によっては、トリミング枠のとおりにプリントされないことがあります。
● トリミング枠を小さくするほどプリントの画質が粗くなります。プリントの画質が粗くなるときに、トリミング枠が赤く表示されます。
● トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

● トリミングの設定は、プリント終了時、または［**キャンセル**］で自動解除されます。
● トリミング枠の形状は、用紙サイズ/画面設定、フチの設定で変わります。

7

撮影画像のプリント指定／DPOF

メモリーカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などを、あらかじめカメラで指定することができます。この機能をプリント指定機能（DPOF）といいます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、写真店にプリントを注文するときに便利な機能です。

DPOF（ディーポフ）について

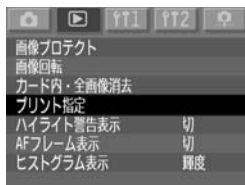
DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたい画像や枚数などのプリント指定情報を、メモリーカードに記録するための規格です。DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

- DPOF 対応のプリンターにメモリーカードを入れるだけで、指定したとおりにプリントできます。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定したとおりにプリントできます。
- 写真店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要になります。

撮影画像をプリント指定する

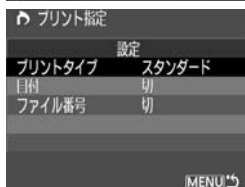
プリント内容の設定

プリントタイプや日付、ファイル番号の入／切といったプリント内容の設定を行います。この設定は、プリント指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。メニュー機能の操作と同じ要領で設定します。

プリントタイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数プリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付	入	［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。
	切	
ファイル番号	入	［入］にすると、ファイル番号を付けてプリントします。
	切	

1 ［プリント指定］を選ぶ

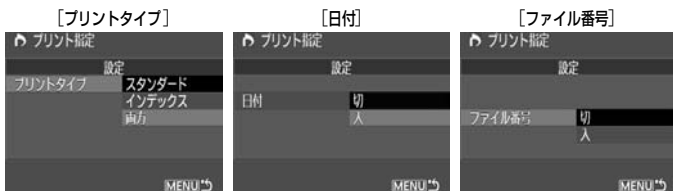
➡ プリント指定画面になります。

2 ［設定］を選ぶ

➡ プリント設定画面になります。

3 項目を設定する

● ［プリントタイプ］［日付］［ファイル番号］の内容を設定します。

［プリントタイプ］

［日付］

［ファイル番号］

4 設定を終了する

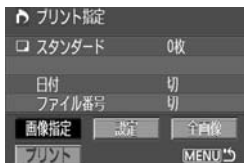
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- 次にプリント指定画面の［**画像指定**］［**全画像**］で、プリントする画像を指定します。

- RAW 形式の画像はプリント指定できません。
- ［**日付**］［**ファイル番号**］を［**入**］にしても、プリントタイプの設定や、プリンターの機種によっては、プリントされないことがあります。（下表参照）

プリントタイプ		日付	ファイル番号
スタンダード		○	×
インデックス*		○	○
両方	スタンダード	○	×
	インデックス	×	○

*Bubble Jet Direct では、日付、ファイル番号はプリントされません。

- ［**インデックス**］では、［**日付**］と［**ファイル番号**］を同時に［**入**］にできません。
- プリントするときは、プリント指定を行ったメモリーカードを使用してください。画像データだけをメモリーカードから抜き出してプリントすると、指定した内容でプリントできません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器によっては、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラで撮影した画像を、このカメラに入れてプリント指定しないでください。プリント指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像のファイル形式によっては、プリント指定できないことがあります。

1 画像ずつ指定

1 ［画像指定］を選ぶ

➡ 画像指定画面になります。

2 プリント指定する画像を選ぶ

● 画像の拡大/縮小と同じ操作方法で、縮小操作をすると、3画像表示になります。拡大操作をすると、元の表示に戻ります。

3画像表示

3 プリントを指定する

● ［プリントタイプ］（136）の設定状態によって、指定の内容が変わります。

［スタンダード］、［両方］の場合

画像ごとにスタンダードタイプのプリント枚数を設定できます。

［インデックス］の場合

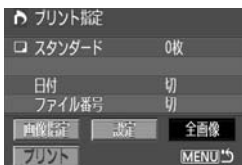
インデックスプリントに加える（〈✓〉表示）／加えない（〈✓〉なし）を設定します。

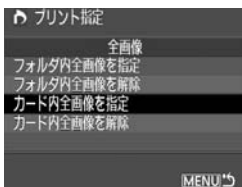
● ほかに指定したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
● 合計998画像まで指定できます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がメモリーカードに保存され、メニュー画面に戻ります。

全画像指定

メモリーカードに記録されている全画像のプリント指定と解除ができます。スタンダードタイプのプリント枚数は、すべて1画像1枚に固定されます。「1画像ずつ指定」の操作をしたあとで「全画像指定」の操作を行うと、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。

1 ［全画像］を選ぶ

- ➡ 全画像指定画面になります。

2 内容を選ぶ

- ［**カード内全画像を指定**］［**フォルダ内全画像を指定**］から選びます。
- ［**カード内全画像を解除**］を選ぶと、メモリーカード内のプリント指定がすべて解除されます。
- ［**フォルダ内全画像を解除**］を選ぶと、フォルダ内のプリント指定がすべて解除されます。

3 設定を終了する

- プリント指定画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 指定した内容がメモリーカードに保存され、メニュー画面に戻ります。

- 全画像指定にしても、RAW 形式の画像はプリント指定されません。
- PictBridgeでプリントするときは、一度にプリント指定する画像の数を、100画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像をプリントできないことがあります。

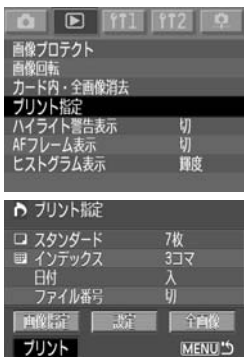
プリント指定画像のダイレクトプリント

DPOFでプリント指定した画像を、ダイレクトプリント対応のプリンターで簡単にプリントすることができます。

1 プリントの準備をする

- 120, 121ページを参照してください。『プリントの準備をする』の手順5まで行います。

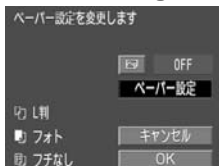
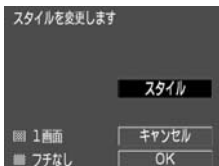
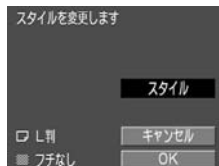
2 ［プリント指定］を選ぶ

➡ プリント指定画面になります。

3 ［プリント］を選ぶ

- ［プリント］は、カメラとプリンターを接続して、プリントできる状態になっていないと表示されません。

➡ プリント設定画面になります。

4 プリント内容を設定する

PictBridge

CPダイレクト

Bubble Jet Direct

PictBridge

● ［**ペーパー設定**］と〈 〉プリント効果を設定します。（123）

CPダイレクト／ Bubble Jet Direct

● ［**スタイル**］を設定します。（127／130）

5 プリントする

● ［**OK**］を選びます。

➡ プリントが開始されます。

● プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SELECT〉ボタンを押して、［**OK**］を選びます。

● PictBridge、Bubble Jet Directでプリントするときは、必ずペーパー（用紙）サイズの設定を行ってください。

● PictBridgeでは、ファイル番号のプリントはできません。

● ［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

● 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種によっては、日付が薄く印刷されることがあります。

● CP ダイレクトで［**プリントタイプ**］が［**インデックス**］のとき、用紙 1 枚にプリントされる画像数は以下のとおりです。

・クレジットカードサイズ：20画像

・L サイズ：42画像

・ポストカードサイズ：63画像

Bubble Jet Direct でプリントしたときの画像数については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

● プリントを中止したあとに、残りの画像をプリントするときは、［**再開**］を選びます。ただし次のときは、プリントの再開はできません。

・再開する前にプリント指定を変更した場合

・再開する前にプリント指定した画像を削除した場合

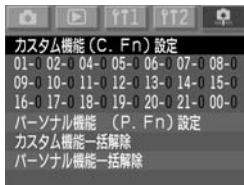
・プリントを中断したときに、メモリーカードの空き容量が少なかった場合

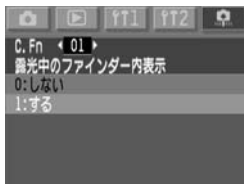
● プリント中に問題が発生したときは、PictBridge:126ページ、CPダイレクト：129ページ、Bubble Jet Direct：132ページを参照してください。

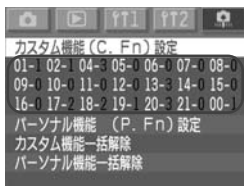
8

カメラをカスタマイズする

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて細かく変更することができます。

MENU カスタム機能の設定方法

1 ［カスタム機能（C.Fn）設定］を選ぶ

- 〈 〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カスタム機能（C.Fn）設定**］を選び、ボタンから指を離します。

2 カスタム機能を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望するカスタム機能項目を選び、ボタンから指を離します。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して設定変更内容を選び、ボタンから指を離します。

3 終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ カスタム／パーソナル機能メニューに戻ります。
- ➡ カスタム機能の設定･変更内容が番号で一覧表示されます。

カスタム機能の一括解除

上記の手順1で［**カスタム機能一括解除**］を選ぶと、一括解除の確認画面が表示されます。

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離すとカスタム機能が一括解除されます。

MENU カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-03は欠番となっています。

C.Fn-01　露光中のファインダー内表示

1：露出情報や撮影可能な枚数を確認しながら連続撮影したいときなどに有効です。

C.Fn-02　カード未装填時のレリーズ

1：メモリーカード未装填時にレリーズ動作を行いませんので、メモリーカードが入っていないまま撮影動作に入ることを防止できます。
シャッターボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内に「**Card**」が点滅して、C.Fn-02-1が設定中であることを知らせます。

C.Fn-04　シャッターボタン／AEロックボタン

1：ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。
2：AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう〈✱〉ボタンでAF作動を一時停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。
3：移動／停止を繰り返す動物撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-04とC.Fn-19-0, 1, 2（151）は、共にAF作動／停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、あとから行う操作で有効となるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、あとから行った操作は有効とはなりません。

C.Fn-05　マニュアル露出時のTv、Av値設定

1：大型ストロボ使用のスタジオ撮影など、絞り数値の変更を頻繁に行う場合に有効です。また、マニュアル露出でAEBを行うと、シャッター速度固定で、絞り数値をAEBに連動して変化させることができます。シャッター速度は〈☒〉ボタン（C.Fn-11-1,2併用時は〈▦〉ボタン）を押しながら〈◎〉でも設定できます。

2：シャッター速度／絞り数値の設定はC.Fn-05-0と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。超望遠レンズをセットして複数台のEOS-1D Mark IIを交換して撮影するときなどに有効です。

3：シャッター速度／絞り数値の設定はC.Fn-05-1と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。

C.Fn-06　露出設定ステップ

1：シャッター速度と絞り数値の設定ステップを、1 段ステップにすることができます。

2：シャッター速度と絞り数値、および露出補正設定ステップを 1/2段ステップにすることができます。

● ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は図のようになります。

C.Fn-06-2 を設定すると、ISO 感度を変えての AEB 撮影ができなくなります。

C.Fn-07　USMレンズの電子式手動フォーカス

1：ワンショットAF合焦後の電子式手動フォーカスを禁止します。C.Fn-07-1、C.Fn-07-2とも、手動ピント合わせはレンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして行います。
2：AFモードでの電子式手動フォーカスをすべて禁止します。
該当するレンズ
EF50/1.0L　USM、EF85/1.2L　USM、EF200/1.8L　USM、EF300/2.8L USM、EF400/2.8L USM、EF400/2.8L II USM、EF500/4.5L　USM、EF600/4L　USM、EF1200/5.6L　USM、EF28-80/2.8-4L USM

C.Fn-04 と C.Fn-07 を併用したときの電子式手動フォーカスは以下のようになります。

カスタム機能 No.		C.Fn-04	
	選択番号	0, 2	1, 3
C.Fn-07	0	×／○	○／○
	1	×／×	○／×
	2	×／×	×／×

＊合焦時／非合焦時　○：可能　×：禁止

C.Fn-08　上面表示パネル／背面表示パネル

1：ISO 感度を常時表示させたいときや、上面表示パネルの撮影可能枚数では表示する桁が不足するときに設定します。
2：撮影可能枚数よりも ISO 感度を常時表示させたいときに設定します。撮影可能枚数が少なくなったときの目安は、ファインダー内・右の「連続撮影時の最大撮影可能枚数」の数値が少なくなっていくことを利用します。
3：選択中のフォルダに入っている保存枚数を表示させたいときや、上面表示パネルの撮影可能枚数では表示する桁が不足するときに設定します。なお、RAW＋JPEGでの保存枚数は、1回撮影で1枚カウントされます。

ファインダー内の ISO 感度設定値も連動して切り換わります。

C.Fn-09　ブラケティング順序／自動解除の有無

この機能を設定すると、Tv値、Av値、またはISO感度を自動的に変化させるAEB撮影順と、ホワイトバランスブラケティングの保存順序が変わります。

「自動解除する」を選択すると、レンズ交換、〈 〉スイッチ〈OFF〉でブラケティングを解除します。

1：最初の 1 枚を標準露出（または基準ホワイトバランス）にしたブラケティング撮影を何回も繰り返すときに有効です。
2：マイナス補正から順にブラケティング撮影することができます。
3：マイナス補正からのブラケティング撮影を何回も繰り返すときに有効です。

C.Fn-10　合焦時のAFフレーム点灯

1：AFフレームが点灯しません。点灯がわずらわしい場合に設定します。
2：C.Fn-10-0の淡い点灯をさせたくないときに設定します。
3：C.Fn-10-0ではAFフレームが見えにくいというときに設定します。

C.Fn-11　AFフレームの選択方法

1：〈 〉ボタンと〈 〉ボタンが入れ代わります。
2：
- 測光タイマー中に〈 〉単独操作で左右方向（C.Fn-13-3 設定時は外周AFフレーム）の選択ができます。シャッターボタン半押し中、AI サーボAF連続撮影中にも可能です。上下左右方向とも両端に突き当たると止まりとなります。
- AF作動中に〈 〉ボタンを押すと、瞬時にAFフレーム自動選択へ切り換えることができます。
- C.Fn-11-1 と同じ操作でもAFフレーム（自動選択含む）を選択することができます。
- C.Fn-11-2とC.Fn-18-1, 2（151）を併用したときの上下方向の選択は、〈 〉ボタンを押して〈 〉操作で行ってください。

3：〈 〉ボタンと〈FEL〉ボタンが入れ代わります。

C.Fn-12　ミラーアップ撮影

1：接写や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影の方法については、95ページをご覧ください。

C.Fn-13　AFフレーム数／スポット測光

1：AFフレームを11点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。（79）

2：AFフレームを11点に限定、スポット測光は中央部スポット測光になります。（79）

3：AFフレームを9点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。（79）

- スポット測光モードを選択しないと AF フレーム連動スポット測光になりません。
- C.Fn-13-1, 2の設定または解除を行うと、登録したAFフレーム（68）が中央AFフレームとなります。

- スポット測光以外の測光モードも選択できます。
- C.Fn-13-1, 2, 3のAFフレーム自動選択は、45の測距点で行われます。
- C.Fn-13-1,3を設定してストロボのFEロック撮影を行うと、任意選択したAFフレームでFEロックすることができます。

C.Fn-14　E-TTL II 調光方式

0：暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1：エリアAFフレームの領域を平均調光します。自動補正は行ないませんので、状況に応じて調光補正する必要があります。FEロック時も状況に応じて調光補正する必要があります。

C.Fn-15　ストロボのシンクロタイミング

1：低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。シンクロタイミング切り換え機能がないEXシリーズストロボで後幕シンクロができるようになります。切り換え機能内蔵のEXシリーズストロボでは、ストロボ側の設定が優先します。

C.Fn-16　セイフティシフトの設定

シャッター優先AEと絞り優先AEにセイフティシフトを設定することができます。

1：被写体の明るさが急に変化して、シャッター優先AE、絞り優先AEの設定値が不適切になっても、設定値を自動変更して適正露出にします。

C.Fn-17　AFフレームの領域拡大

1：任意選択したAFフレームの範囲を上下左右1つずつ広げ、7点で被写体をとらえます。任意の1点では追従できないような不規則に変化する被写体を撮影するときに有効です。

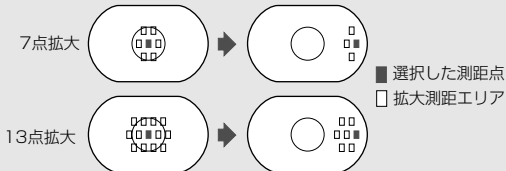
2：使用レンズの焦点距離や、AFモードに応じて、カメラが自動的にAFフレームの範囲を設定、7点あるいは13点で被写体をとらえます。被写体の動きが予測できないような場合に有効です。

- AFフレームの領域拡大は、選択したAFフレームを中心に拡大されるため、外寄りのAFフレームを選択したときは、図のように拡大領域が小さくなります。

7点拡大

13点拡大

■ 選択した測距点

□ 拡大測距エリア

- C.Fn-13併用時も領域拡大します。

C.Fn-18　登録AFフレームへの切り換え

1：〈⊡〉ボタンを押すと登録したAFフレームに切り換えます。
2：〈⊡〉ボタンを押している間だけ、登録したAFフレームに切り換えます。ボタンを離すと元のAFフレームへ戻ります。選択しているAFフレームと、登録したAFフレームを交互に切り換えながら撮影したいときに有効です。

> C.Fn-04-1，3 を組み合わせて設定すると、〈⊡〉ボタン単独押しで登録AF フレームの切り換えと AF スタートを同時に行うようにすることができます。

C.Fn-19　レンズ・AFストップボタンの機能変更

1：押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。
2：測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。
3：AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけ45点AFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に任意AFで追従できなくなったときに有効です。
AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AF フレームが選択されます。
4：ワンショットAF設定時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF 設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。
5：レンズの手ブレ補正機能スイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

> AF ストップボタンは、大型の手ブレ補正機能付き超望遠レンズにだけ装備されています。

C.Fn-20　AI SERVO 被写体追従敏感度

1, 2：AFフレームを横ぎる障害物の影響を少なくしたいときに有効です。
3, 4：ランダムな距離にある複数の被写体を次々撮影するときに有効です。

この機能を設定しても、AI サーボ AF の追従速度は変化しません。

C.Fn-21　AI SERVO 連続撮影・撮影速度優先

1：ピントが合っていなくても、撮影速度を優先して撮影を行います。多少のピンボケよりも「写っていることのほうが重要」というときに有効です。

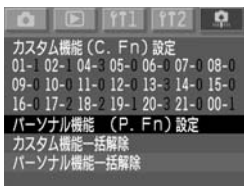
C.Fn-00　フォーカシングスクリーン

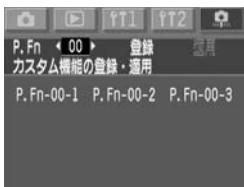
0：ニューレーザーマットスクリーン使用時に設定します。
1：レーザーマットスクリーン使用時に設定します。
EOS-1D Mark IIの標準フォーカシングスクリーンは、Ec-CIIIですので、購入時の状態はC.Fn-00-1に設定されています。

フォーカシングスクリーンを交換したときのカスタム機能（C.Fn-00）につきましては、164ページを参照してください。

MENU カスタム機能のグループ登録

あらかじめ設定したカスタム機能を、スポーツ撮影用、スナップ撮影用、風景撮影用などに分けて3グループまで登録することができます。

C.Fn-00「フォーカシングスクリーンの特性に合わせる」は、グループ登録できません。

1 ［パーソナル機能（P.Fn）設定］を選ぶ

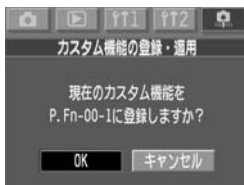
- 〈〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］を選び、ボタンから指を離します。

2 ［P.Fn 00］を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**P.Fn 00**］を選び、ボタンから指を離します。

3 ［登録］、または［適用］を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**登録**］、または［**適用**］を選び、ボタンから指を離します。
- 未登録の場合には［**適用**］が選べません。

4 グループ番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して登録、または適用するグループ番号［**P.Fn-00-1**］～［**P.Fn-00-3**］を選び、ボタンから指を離します。

5 登録、または適用する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。
- 登録の場合は、内容の確認画面が表示されたら〈SELECT〉ボタンを押します。

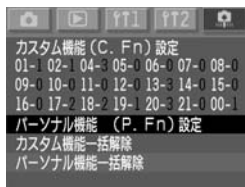
パーソナル機能について

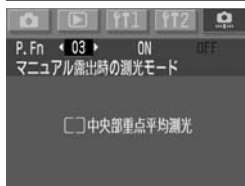
パーソナル機能とは、カスタム機能よりもさらにきめこまかな設定変更を可能とする機能のことです。
パーソナル機能は、付属のソフトウェア（EOS Viewer Utility）で設定します。
なお、P.Fn-00 カスタム機能のグループ登録 は、EOS-1D Mark II単体でのみ設定することができます。

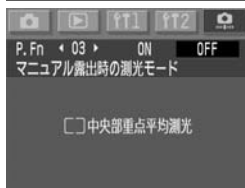
P.Fn-No.	パーソナル機能の項目
00	カスタム機能のグループ登録
01	撮影モードを限定する
02	測光モードを限定する
03	マニュアル露出撮影時の測光モードを指定する
04	シャッター速度の上限、下限値を設定する
05	絞り数値の上限、下限値を設定する
06	撮影モードと測光モードの登録・切り換え
07	連続撮影時、ブラケティング撮影を繰り返し行う
08	ブラケティング撮影時の撮影枚数
09	C.Fn-09-2, 3のブラケティング撮影順をプラス補正→標準→マイナス補正の順に行う
10	プログラムシフトのシフト量を保持する
14	レンズ駆動によるピント検出（サーチ駆動）を行わない
15	AF補助光の投光を禁止する
16	ピント固定、シャッターボタン全押し状態で合焦したら自動撮影する
17	AFフレーム自動選択を選べないようにする
18	C.Fn-11-2設定時にAFフレーム自動選択を可能にする
19	連続撮影の速度を設定する
20	連続撮影時の撮影枚数を制限する
21	撮影後、シャッターボタンOFFで静粛動作する
23	各種タイマー保持時間を変更する
24	バルブ撮影中、表示パネルの照明を消さない
25	クリアボタン（ ＋ WB）ON時の初期状態を変更する
26	レリーズタイムラグを最速化する
27	電子ダイヤルの設定方向（回転）を反転する
28	サブ電子ダイヤルによる露出補正を禁止する
30	〈 〉スイッチを〈 〉にも有効にする
31	オリジナル画像判定用データを付加

＊ **P.Fn-11,12,13, 22, 29の欠番について**
P.Fn-00 ～ 31 までの番号とその内容を、従来の EOS-1 シリーズと合わせるために欠番を設けています。

MENU パーソナル機能の解除と再設定

付属ソフトウェアで設定・登録した、パーソナル機能の解除と再設定を行うことができます。なお、設定内容の変更は付属ソフトウェアでのみ行うことができます。

1 ［パーソナル機能（P.Fn）設定］を選ぶ

- 〈 〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］を選び、ボタンから指を離します。

2 解除、または再設定するパーソナル機能の番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して解除するパーソナル機能の番号を選び、ボタンから指を離します。

3 解除、または再設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。解除は［**OFF**］、再設定は［**ON**］です。選んだらボタンから指を離します。

➡［**ON**］［**OFF**］のうち、有効になっている方が緑色で表示されます。

パーソナル機能の一括解除

上記の手順1で［**パーソナル機能一括解除**］を選ぶと、一括解除確認画面が表示されます。

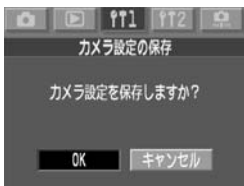
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**OK**］を選び、ボタンから指を離すとパーソナル機能が一括解除されます。
- 再設定は、上記の手順で行うことができます。

MENU カメラ設定の保存と読み込み

撮影モードやメニュー、カスタム機能、パーソナル機能など、カメラに設定されている内容をメモリーカードに保存／読み込むことで、どのEOS-1D Mark IIに対しても、保存した内容に設定することができます。

カメラ設定の保存

1 ［カメラ設定の保存］を選ぶ

- 〈ƒƒ1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［カメラ設定の保存］を選び、ボタンから指を離します。

2 カメラ設定を保存する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。

➡ カメラ設定がメモリーカードに保存されます。

- 日付／時刻、撮影可能枚数など、保存／読み込みすると不都合のある内容は、保存されません。
- カメラ設定は、1 つのメモリーカードに 1 つしか保存できません。すでにカメラ設定が保存されている場合は、上書き保存されます。

カメラ設定の読み込み

1 カメラ設定が保存されたメモリーカードをカメラに入れる

2 ［カメラ設定の読み込み］を選ぶ

- 〈ƒƒ1〉タブを選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カメラ設定の読み込み**］を選び、ボタンから指を離します。

3 カメラ設定を読み込む

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。
- ➡ メニュー画面が消え、カメラの電源が一瞬切れます。
- ➡ カメラ設定がカメラに読み込まれ、保存したときと同じカメラ設定になります。

9

資料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。

電源

バッテリーが充電できない

- **専用のバッテリーを使用していますか？**
  ➡ 専用のニッケル水素パックを使用してください。（16）
- **チャージャーに正しくセットしましたか？**
  ➡ バッテリーを正しくセットしてください。（16）

〈 〉スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- **バッテリーが消耗していませんか？**
  ➡ バッテリーを充電してください。（16）
- **バッテリーを正しく入れましたか？**
  ➡ バッテリーを正しく入れてください。（18）
- **メモリーカードスロットカバーが開いていませんか？**
  ➡ メモリーカードをしっかりと差し込み、メモリーカードスロットカバーをしっかりと閉じてください。（22）

〈 〉スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- **撮影後、すぐに〈 〉スイッチを〈OFF〉にしても、メモリーカードへの画像記録を行なうため、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。**
  ➡ メモリーカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

バッテリーの消耗が早い

- **バッテリーが十分に充電されていますか？**
  ➡ 十分に充電してください。（16）
- **バッテリーの寿命ではありませんか？**
  ➡ 新しいバッテリーをお買い求めください。（166）

電源が勝手に切れる

- ● オートパワーオフ機能が働いていませんか？
- ➡ もう一度〈⊜〉スイッチを〈ON〉にするか、オートパワーオフ機能を［切］にしてください。（33）

表示パネルに〈▭〉のみが点滅している

- ● バッテリーの容量が極端に少なくなっています。
- ➡ バッテリーを充電してください。（16）

撮影

撮影・記録ができない

- ● メモリーカードが正しくセットされていますか？
- ➡ メモリーカードを正しく入れてください。（22）
- ● メモリーカードがいっぱいになっていませんか？
- ➡ 新しいメモリーカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（22, 113）
- ● バッテリーが消耗していませんか？
- ➡ バッテリーを充電してください。（16）
- ● ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マークが点滅していませんか？）
- ➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（74）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- ● ゴミやホコリがついていませんか？
- ➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。
- ● 液晶が消耗していませんか？
- ➡ お客様相談窓口にご相談ください。

画像がボケて写っている

- ● レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉になっていませんか？
- ➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（21）
- ● シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？
- ➡ 手ブレを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。（26, 35）

メモリーカードが使えない

- ● メモリーカードのデータが壊れていませんか？
- ➡ メモリーカードを初期化してください。（116）
- ➡ 指定されたメモリーカードを使用してください。（3）

撮影画像の確認・操作

画像を消去できない

- ● 画像にプロテクトをかけていませんか？
- ➡ プロテクトを解除してください。（110）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- ● 日付／時刻が正しく設定されていますか？
- ➡ 日付／時刻を正しく設定してください。（36）

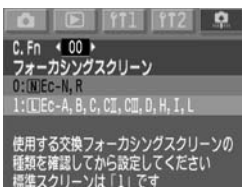
エラーコード表示

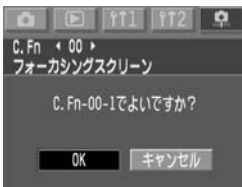
カメラに異常が発生すると、上面表示パネルに「**Err xx**」の表示がでます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「**xx**」の数値を控えて最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙）にお持ちください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈DISPLAY〉ボタンを押して画像の確認をしてください。

エラーコード	対 応
Err 01	カメラとレンズの通信不良です。 レンズの接点を清掃してください。（7）
Err 02	メモリーカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。メモリーカードの抜き差しを行う。メモリーカードをフォーマットする。別のメモリーカードに交換する。
Err 03	メモリーカード内のフォルダ数が多すぎます。初期化されているメモリーカードに交換してください。
Err 04	メモリーカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるメモリーカードに交換してください。
Err 99	上記以外の異常が発生しました。 他社製のレンズを使用すると、カメラやレンズが正常に作動できず、このエラーが出ることがあります。 バッテリーを抜き差ししてください。

フォーカシングスクリーンを交換したとき

このカメラはフォーカシングスクリーンを撮影目的に合わせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じてカスタム機能C.Fn-00で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

スクリーンタイプ	スクリーンモデル	カスタム機能CF-00の設定
N ：ニューレーザーマットスクリーン	Ec-N、Ec-R	0
L ：レーザーマットスクリーン	Ecタイプ (A,B, C, CII, CIII, D, H, I, L)	1

1 カスタム機能C.Fn-00を選ぶ

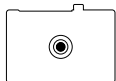
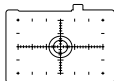
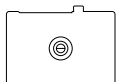
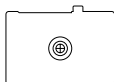
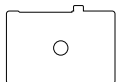
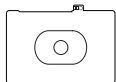
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［00］を選び、ボタンから指を離します。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する項目を選び、ボタンから指を離します。

2 メッセージの内容を確認する

- まちがいなければ、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、ボタンから指を離します。

C.Fn-00はグループ登録できるカスタム機能に含まれません。

- カメラを購入したままの状態でお使いになる場合は、カスタム機能C.Fn-00-1 の設定を変更する必要はありません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- Ec-A、Ec-B、Ec-I、Ec-L は中央部がプリズムになっています。プリズム部を基準にした評価測光、スポット測光では適正露出が得られません。測光モードは中央部重点平均測光か中央部を除くスポット測光をお使いください。

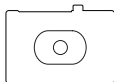
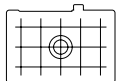
フォーカシングスクリーンEcには次のタイプがあります。

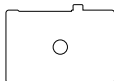
Ec-A 標準マイクロ

Ec-B ニュースプリット

Ec-CII 全面レーザーマット

Ec-CIII レーザーマット

Ec-D 方眼レーザーマット

Ec-H 目盛入りレーザーマット

Ec-I 十字入りレーザーマット

Ec-L クロススプリット

Ec-N ニューレーザーマット

Ec-R ニューレーザーマット

主なアクセサリー（別売）

ニッケル水素パック NP-E3

専用の強力な電源パックです。電源の定格12V。約500回以上の充放電繰り返し使用ができます。フル充電で約1200枚（常温）の撮影ができます。

ニッケル水素チャージャー NC-E2

ニッケル水素パックNP-E3用の急速充電器（過充電防止機能付き）です。1パックの充電所要時間は約120分、一度に2パックの取り付けができます。また、二次電池特有のメモリー効果を解消する放電機能（所要時間 約 8.5 時間）も備えています。電源はAC100～240Vにそのまま対応します。

クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用する、クリップオンタイプストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。通常のAE撮影と同じ操作感覚で、E-TTL II 自動調光、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影などのストロボ撮影を行うことができます。なお、550EXでは、簡単な操作で、E-TTL II 自動調光対応のワイヤレス多灯撮影ができます。

マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボがあります。

片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL II 自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影のほか、550EX、420EXをスレーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。

リモートスイッチ RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は約80cm 。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをカメラのリモコン端子に接続して使用します。

タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長約80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。カメラへの接続プラグはワンタッチロック式です。

ワイヤレスコントローラー LC-4

最大到達距離、約100mのワイヤレスコントローラーです。送信機と受信機で構成されています。受信機のカメラ接続プラグをカメラのリモコン端子に接続して使用します。

視度補正レンズ E

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。

メモリーカード

撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。メモリーカードは、キヤノン製メモリーカードのご使用をおすすめします。

PCカードアダプター

CFカードをパソコンのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

システムマップ

ST-E2
220EX
420EX
550EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
ラバーフレームEc
視度補正レンズE
アンチフォグ
アイピースEc
アイカップEc-II
アングル
ファインダーC
フォーカシング
スクリーンEc
同梱品
ワイドストラップL5
ハンドストラップE1
リチウム電池CR2025
EOS DIGITAL
Solution Disk
Digital Photo
Professional Disk
ニッケル水素パックNP-E3
DCカプラーキットDCK-E1
ニッケル水素チャージャーNC-E2

タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモートスイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-4
EFレンズ群
ダイレクトプリント対応
BJプリンター
カードフォトプリンター
インターフェースケーブル
IFC-400PCU
PictBridge対応プリンター
インターフェースケーブル
IFC-200D4
ビデオケーブル
VC-100
インターフェースケーブル
IFC-450D4
IFC-200D44
IFC-450D44
IEEE 1394ポート
USBポート
PCカードスロット
パソコン
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS 9.0~9.2
Mac OS X
テレビ／ビデオ
カードリーダー
CFカード
SDメモリーカード
PCカードアダプター
オリジナルデータ
確認キット DVK-E2

主な仕様

■型式

型式....................................デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................CFカード（タイプI、II準拠）、SDメモリーカード
画面サイズ........................28.7×19.1mm
使用レンズ........................キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズ除く）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の1.3倍に相当）
レンズマウント................キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式....................................高感度·高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数................................カメラ部有効画素：約820万画素
総画素：約850万画素
アスペクト比....................3：2
カラーフィルター方式......RGB原色フィルター
ローパスフィルター..........固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット形式......DCF 2.0：JPEG、およびRAW
記録画像形式....................JPEG、RAW（12bit）
RAW+JPEG同時記録.....可能
ファイルサイズ................（1）L（ラージ）：約2.8MB（3504×2336画素）
（2）M1（ミドル1）：約2.2MB（3104×2072画素）
（3）M2（ミドル2）：約1.7MB（2544×1696画素）
（4）S（スモール）：約1.0MB（1728×1152画素）
（5）RAW：約8.3MB（3504×2336画素）
* JPEG画質：8の場合
* ファイルサイズは、JPEG画質、被写体条件、ISO感度などにより異なる
フォルダ設定....................フォルダ作成／選択可能
ファイル番号....................（1）通し番号
（2）オートリセット
（3）強制リセット
現像パラメーター............標準のほか、任意設定した現像パラメーターを3種類登録可能
カラーマトリックス..........標準設定5種類のほか、任意設定した現像パラメーターを2種類登録可能
バックアップ画像記録......可能（同一画像をCFカード、SDメモリーカードに同時記録）
インターフェース............パソコン通信用IEEE1394
ダイレクトプリント用USB
ビデオ出力（NTSC／PAL選択可）

■ホワイトバランス

種類……オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度数値・直接設定、カスタムホワイトバランス（計10種類）
オートホワイトバランス……撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正……ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下左右とも約100%
倍率……0.72倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント……20mm
視度調整範囲……－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン……交換式（9種類）、Ec-CIII標準装備
ミラー……クイックリターン式全面ハーフミラー（透過：反射＝37：63、ミラー切れ：1200mm F5.6までなし）
ファインダー情報……AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、マニュアル露出、スポット測光範囲、ISO感度、露出レベル、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光レベル）、ホワイトバランス補正、JPEG記録、撮影可能枚数情報、メモリーカード情報
被写界深度確認……絞り込みボタンによる
アイピースシャッター……内蔵

■オートフォーカス

方式……CMOSセンサーによるTTL-AREA-SIR方式
測距点……45点（エリアAF）
測距輝度範囲……EV 0～18（常温・ISO 100相当）
フォーカスモード……ワンショットAF（ONE SHOT）
AIサーボAF（AI SERVO）
手動（MF）
AFフレーム選択……自動選択、任意選択、ホームポジション（登録AFフレームへの切り換え）
AFフレーム選択表示……ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光……専用ストロボの内蔵AF補助光による

■露出制御

測光方式	21分割TTL開放測光 （1）評価測光（全てのAFフレームに対応） （2）部分測光（中央部·ファインダー画面の約 13.5% （3）スポット測光 ・中央部スポット測光（ファインダー画面の約3.8%） ・AFフレーム連動スポット測光（ファインダー画面の約3.8%） ・マルチスポット測光（最大入力回数8回) （4）中央部重点平均測光
測光範囲	EV0～20（常温・50mm F1.4 使用・ISO100相当）
露出制御方式	プログラム AE（シフト可）、シャッター優先 AE、絞り優先AE、E-TTL II 自動調光、マニュアル露出、ストロボメータードマニュアル
ISO感度	100～1600 相当（1/3段ステップ)、 およびISO50、3200 相当の感度拡張が可能
露出補正	AEB：1/3段ステップ±３段 因子：①シャッター速度と絞り数値　②ISO感度 手動：1/3段ステップ± 3段（AEB併用可能）
AEロック	自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック 手動：AEロックボタン押しによる（全ての測光方式で可能）

■シャッター

形式	電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/8000～ 30秒（1/3段ステップ)、バルブ、X＝1/250 秒
レリーズ方式	ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー	10秒後／２秒後撮影
リモコン	N3タイプ端子リモコン対応

■ストロボ

EOS 専用ストロボ	EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL II 自動調光
シンクロ端子	あり

■ドライブ関係

ドライブモード	1枚撮影／低速連続撮影／高速連続撮影／セルフタイマー
連続撮影速度	低速連続撮影：約3コマ／秒、高速連続撮影：約8.5コマ／秒
連続撮影時の最大撮影枚数	JPEG：約40枚（ラージ、JPEG画質８） RAW ：約20枚

■液晶モニター

形式.....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ.........................2.0型
画素数.................................約23万画素
視野率.................................100%
輝度調整.............................5段階に調整可能
表示言語.............................12言語

■再生機能

画像表示形式.....................1枚、1枚(INFO.)、4枚インデックス、9枚インデックス、拡大ズーム(約1.5～10倍)、画像回転表示
ハイライト表示..................画像表示形式1枚(INFO.)と、1枚のとき、画像情報のない白域部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト.........................1枚／フォルダ内全画像／カード内全画像の単位でプロテクト、または解除
消去.....................................1枚／フォルダ内全画像／カード内全画像の単位で消去(プロテクト画像をのぞく)

■録音機能

記録方式.............................内蔵マイクで取り込んだ音声を記録画像に添付
録音形式.............................WAV形式
録音時間.............................1回につき最長約30秒

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター..................CPダイレクト、Bubble Jet Direct、およびPictBridge対応プリンター
プリント対応画像..............JPEG画像(DPOFバージョン1.1に準拠したプリント指定可能)

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....................21種67項目
パーソナル機能..................27種
カメラ設定状態の保存／読み込み..............可能

■電源

使用電池.............................ニッケル水素パックNP-E3、1個使用
*ACアダプター、DCカプラー併用により、AC駆動可能
撮影可能枚数.....................常温(20℃):約1200
低温(0℃) :約800
*フル充電のニッケル水素パックNP-E3使用時

バッテリーチェック.......... 自動
節電機能............................. あり、設定時間（1／2／4／8／15／30分）経過で電源OFF
バックアップ電池 .... リチウム電池CR2025、1個使用

■大きさ・質量

大きさ................................ 156（幅）×157.6（高さ）×79.9（奥行）mm
質量.................................... 1220g（本体のみ。電池335ｇ）

■動作環境

使用可能温度 ....0℃～＋45℃
使用可能湿度 85%以下

- 記載データは全て当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

索　引

Canon

キヤノン株式会社　canon.jp
キヤノン販売株式会社　〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツ等もございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社

canon.jp/camera

この使用説明書は、2004年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

Ni-MH ニッケル水素電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5158 - 000